南種子町埋蔵文化財発掘調査報告書(6)

石ノ峯遺跡

—地域活性化住宅供給計画（コスモタウン南種子団地建設）
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

1996年3月

南種子町教育委員会

序　　文

本書は，地域活性化住宅供給計画（コスモタウン南種子団地建設）に伴う石ノ峯遺跡発掘調査の報告書です。

発掘調査は，確認調査を平成６年７月４日から平成６年７月15日までの２週間と，本調査を平成７年５月８日から平成７年５月12日までの１週間実施し，縄文時代早期の土器や石器が出土しました。
なかでも，計３点の磨製石鏃が出土したことは貴重なことでした。

また，本調査における調査面積は49㎡と少ないものでしたが，開発側の御理解により遺跡の保存ができたことは，たいへん喜ばしいことであります。

この調査報告書を通じて，埋蔵文化財に対する御理解と今後の埋蔵文化財調査研究の資料として広く御活用いただければ幸いに存じます。

終わりに，発掘調査報告書の刊行にあたり，鹿児島県教育庁文化課・鹿児島県立埋蔵文化財センター及び作業協力者の方々やその他の関係者の方々の御協力に深く感謝申し上げます。

平成８年３月

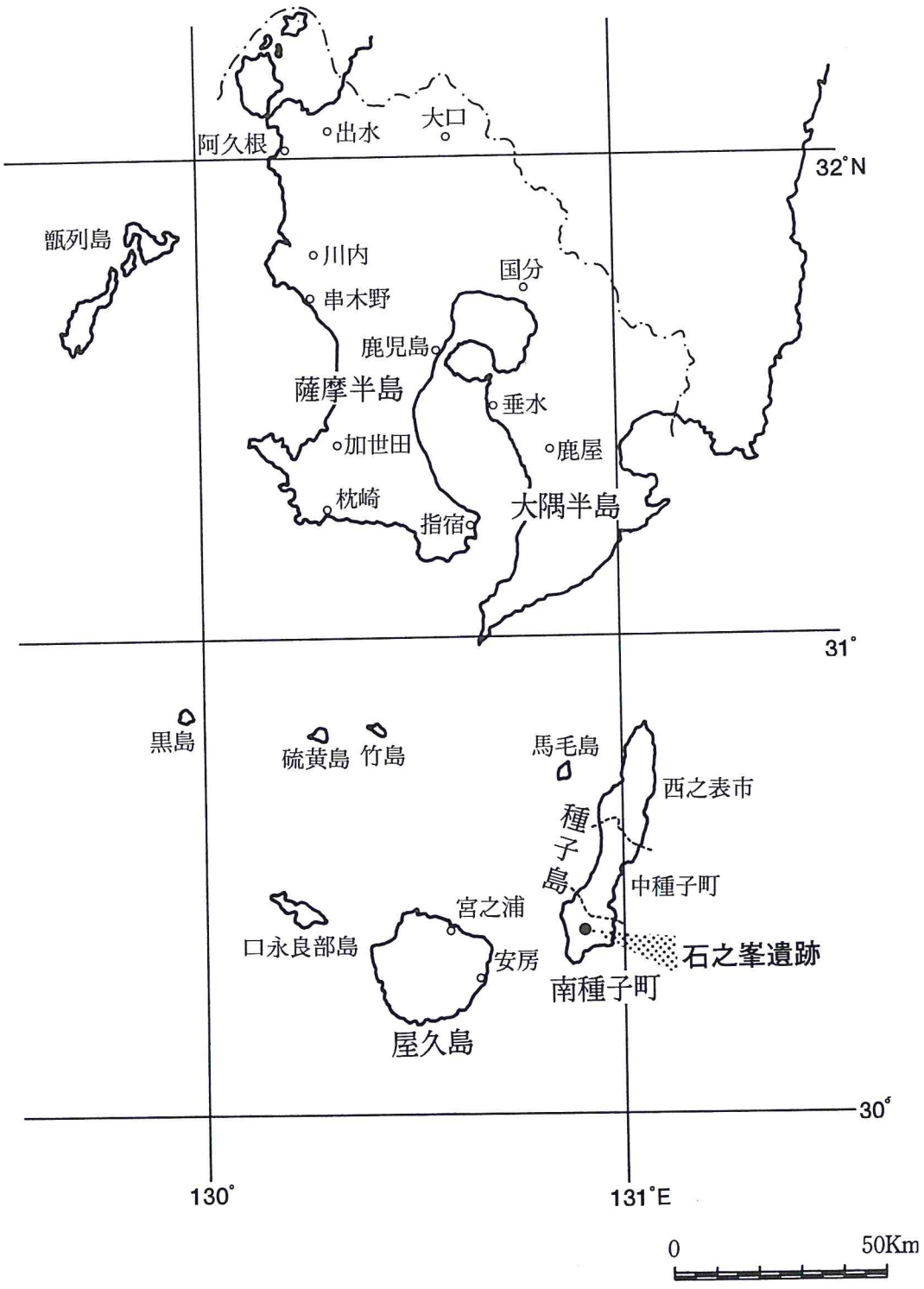
南種子町教育委員会
教育長　堂ノ脇大雄

報告書抄録

ふりがな	いしのみね
書名	石ノ峯遺跡
副書名	地域活性化住宅供給計画（コスモタウン南種子団地建設）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	南種子町埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	(6)
編著者名	坂口　浩一・前迫　亮一
編著機関	南種子町教育委員会
所在地	〒 891-37　鹿児島県熊毛郡南種子町中之上2793番地1　TEL. 09972-6-1111
発行年月日	西暦　1996年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
いしのみね 石ノ峯遺跡	鹿児島県熊毛郡 南種子町中之上	5020	51	30°25′20″	130°54′40″	確認調査 19940704 ～ 19940716 本調査 19950508 ～ 19940512	確認調査 733m² 本調査 49m²	地域活性化住宅供給計画（コスモタウン南種子団地建設）に伴う埋蔵文化財発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
石ノ峯遺跡	散布地	縄文時代 （早期）		塞ノ神式土器 磨製石鏃 磨石・敲石 石皿	



南種子町石之峯遺跡位置図

例　　言

1　本書は，1994年７月と1995年５月に実施した地域活性化住宅供給計画（コスモタウン南種子団地建設）に伴う発掘調査の報告書である。

2　調査は，平成６年度から平成７年度にかけて南種子町教育委員会が鹿児島県町村土地開発公社の委託を受けて調査主体となり，県立埋蔵文化財センターに協力を依頼して実施した。

3　本書で用いたレベル数値は，海抜絶対高である。

4　遺物番号は，本文及び挿図・図版の番号と一致する。

5　発掘調査における測量・実測・写真撮影は坂口・鶴田・前迫で行い、遺物の実測・トレースは坂口，写真撮影は坂口・前迫で行い，垂水市教育委員会鵜飼氏の協力を得た。

6　本書の執筆・編集は坂口・前迫で行った。

本 文 目 次

序　文
報告書抄録
南種子町石ノ峯遺跡位置図
例　言
第１章　調査の経過 …… 1
　第１節　調査に至るまでの経過 …… 1
　第２節　調査の組織 …… 1
　第３節　調査の経過 …… 2
第２章　遺跡の位置と環境 …… 5
第３章　調査の概要 …… 9
　第１節　基本土層について …… 9
　第２節　各トレンチの概要 …… 9
　第３節　出土遺物 …… 19
第４章　調査後の経過 …… 30
第５章　まとめ …… 33
あとがき

表　目　次

第１表　遺跡地名表(1) …… 7
第２表　遺跡地名表(2) …… 8
第３表　出土土器観察表 …… 22
第４表　出土石器計測表 …… 28

挿 図 目 次

第１図　南種子町の遺跡分布図 …… 6
第２図　調査対象区域図 …… 11
第３図　トレンチ配置図 …… 12
第４図　各トレンチ平面図・土層断面図(1) …… 13
第５図　各トレンチ平面図・土層断面図(2) …… 14

第６図　各トレンチ平面図・土層断面図(3)　……15
第７図　各トレンチ平面図・土層断面図(4)　……16
第８図　各トレンチ平面図・土層断面図(5)　……17
第９図　本調査区平面図・土層断面図　……18
第10図　出土遺物（土器１）　……20
第11図　出土遺物（土器２）　……21
第12図　出土遺物（石器１）　……23
第13図　出土遺物（石器２）　……24
第14図　出土遺物（石器３）　……25
第15図　出土遺物（石器４）　……26
第16図　出土遺物（石器５）　……27
第17図　主な出土遺物位置図　……29
第18図　コスモタウン南種子町団地完成予想図　……31
第19図　遺跡の残存状況図　……32

図　版　目　次

図版１　発掘調査状況（確認調査・本調査）　……34
図版２　完掘状況（第17トレンチ）・土層断面（本調査北東壁）　……35
図版３　遺跡近景（北東側から）調査中・遺跡近景（南東から）調査中・
　　遺跡遠景（西側から）調査後　……36
図版４　詳細分布調査状況・確認調査状況・本調査状況　……37
図版５　ピット状遺構検出状況・溝状遺構検出状況　……38
図版６　遺物出土状況（第９トレンチ・第16トレンチ・本調査区）　……39
図版７　町長視察風景・土層断面（第４トレンチ・第７トレンチ）　……40
図版８　土層断面（第８トレンチ・第14トレンチ・第18トレンチ）　……41
図版９　土層断面（本調査区）・完掘状況（本調査区）・遺跡より東方を望む　……42
図版10　出土遺物(1)　……43
図版11　出土遺物(2)　……44
図版12　出土遺物(3)　……45
図版13　出土遺物(4)　……46
図版14　出土遺物(5)　……47
図版15　発掘作業員（確認調査・本調査）　……48

第１章　調査の経過

第１節　調査に至るまでの経過

鹿児島県町村土地開発公社は，南種子町上中大字都において地域活性化住宅供給計画（コスモタウン南種子団地建設）を策定し，埋蔵文化財の有無について南種子町教育委員会に照会した。これを受けて南種子町教育委員会は，鹿児島県教育庁文化課（以下，県文化課）に埋蔵文化財の分布調査を依頼し，平成５年度に分布調査を実施した。その結果，工事区域内の東側において遺物の散布，詳細分布調査を行った西側では時期不詳の遺構が認められた。

このことに基づき，鹿児島県町村土地開発公社・南種子町教育委員会・県文化課の間で事業推進と埋蔵文化財の保護に係る協議が行われ，事業実施前の平成６年度に遺跡の範囲・性格を把握するための確認調査を実施した。

確認調査の結果，事業区域内の南東側約4,000㎡に関して遺跡の存在が確認され，協議により公園内に計画された展望台について設計変更が不可能なため，平成７年度に緊急発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は，南種子町教育委員会が主体となり県立埋蔵文化財センターに協力を依頼して実施した。

第２節　調査の組織

調査主体	南種子町教育委員会		
調査責任者	〃	教育長	堂ノ脇　大雄
調査事務担当者	〃	社会教育課長	崎田　宏（７．４まで）
	〃	〃	平畠　典男（７．５から）
	〃	体育文化係長	西田　三郎（６．10まで）
	〃	〃	原　隆昭（６．11から）
	〃	主事	園田　みどり（６．９まで）
	〃	〃	河野　彰子（７．４から）
発掘担当者	南種子町教育委員会	文化財主事	坂口　浩一
	県立埋蔵文化財センター	〃	鶴田　靜彦
	〃	文化財研究員	前迫　亮一

発掘作業員

西園善太，鮫島末一，西園藏栄，小西良治郎，西園テイ子，椙松チワ子，積ヤエ，岩元ミユキ，鮫島江美子，寺川順子，古市美和子，岩坪ノリ子，今村久子，坂口和子，日高ハツミ，坂口ミヨ，古市悦子，伊藤ヤス子，小薗昭子，西園スミヱ，岩坪明美，落水秀夫，岩元イツ，砂森洋子，外園悦子，高宗タヱ子，向江陽子，小囿トシ，宮里瑞子，向江ミチエ，外園イヨ，馬場裕子，島崎チヤ子，寺川洵子，古市次男，坂口秀夫

整理作業員

有村明子，伊集院香代子，森岡幸子

第３節　調査の経過

発掘調査は，確認調査を平成６年７月４日から平成６年７月16日までの11日間行い，本調査を平成７年５月８日から平成７年５月12日までの５日間行った。以下，調査経過を調査日誌より抄録する。

１．分布調査

（平成５年）

７月14日（水）　表面採集による分布調査の結果，調査対象面積23,587㎡のうち，東側の8,931㎡において，遺物の散布を確認。また，残りの部分については，作物等の関係で調査不能であった。

２．詳細分布調査

（平成５年）

11月17・18日（水・木）　分布調査において，調査不能地であった14,656㎡について，詳細分布調査を実施。その結果，遺物は発見されなかったものの，若干灰色をおびた黒褐色土を埋土とする遺構（柱穴状ピット・溝状遺構等）を検出。

３．確認調査

（平成６年）

７月４日（月）　石ノ峯遺跡発掘作業開始。作業用具の準備点検。作業員へ作業手順・安全確保の注意。トレンチ設定。バックホウによる表土剥ぎ取り。作業員による発掘作業開始。

５日（火）　トレンチ設定（17本）。「分布調査による遺物採取地域」バックホウによる表土剥ぎ取りの後，掘り下げ。出土遺物なし。「詳細分布地域」トレンチ11本設定。前年度調査地点のピットの掘り出し。基本土層（２ヶ所）の清掃。

６日（水）　１～５トレンチ掘り下げ完了。土層断面・完掘状況写真撮影。６～10トレンチ設定及び表土剥ぎ取り。９トレンチより遺物出土。

⑧トレンチで黒色を埋土とする溝状遺構の検出・写真撮影。ピットの掘り出し。バックホウによる表土剥ぎ取り作業。

７日（木）　１～５トレンチ土層断面図作成。11トレンチ設定。６～８トレンチ、赤ホヤ層の除去。７・８トレンチ縄文時代早期層の掘り下げ８・９・11トレンチ遺物出土。遺物出土状況写真撮影・実測・遺物取り上げ。10トレンチ掘り下げ。

⑧トレンチ溝状遺構の範囲確認・ピット集中部の検出及び清掃・写真撮影。バックホウによる詳細分布調査。

８日（金）　６～11トレンチ掘り下げ。10・11トレンチ土層断面写真撮影。６・７トレ

ンチ遺物出土。９トレンチ遺物出土状況写真撮影・実測。12～15トレンチ設定。12～14トレンチ掘り下げ。⑧トレンチで溝状遺構検出及び写真撮影。バックホウによる表土剥ぎ取り。地形測量。

来跡者：町長・教育長・他７名

11日（月）　６～９・12～15トレンチ掘り下げ。10トレンチ土層断面実測。６～８トレンチ遺物出土状況実測・写真撮影・取り上げ。12～14トレンチ遺物出土。15トレンチ赤ホヤ層の除去。「詳細分布地域」トレンチ４本設定。

バックホウによる詳細分布調査（造成による撹乱及び客土が多い）。猛暑のため寒冷紗を張る。

12日（火）　６～９・12～15トレンチ掘り下げ。12・15トレンチ遺物出土。11トレンチ土層断面実測。12トレンチ遺物出土状況写真撮影・取り上げ。16～19トレンチ設定・バックホウによる表土剥ぎ取り。18トレンチ赤ホヤ層下面まで掘り下げ。

②トレンチピット掘り下げ・遺構配置図実測・土層断面実測。⑦トレンチ土層確認のため深掘り・土層断面実測。⑧トレンチ遺構配置図実測・土層断面実測。⑪～㉑トレンチ配置図実測。

13日（水）　６トレンチ遺物出土状況写真撮影・取り上げ。６～９トレンチ土層断面実測・写真撮影。12～15・18・19トレンチ掘り下げ。19トレンチより遺物出土。12・13・17トレンチ，赤ホヤ層の剥ぎ取り。17トレンチ石皿出土。14トレンチ遺物出土状況実測・取り上げ。３トレンチ遺構掘り下げ・写真撮影。⑧トレンチ遺構配置図実測。㉑トレンチ遺構掘り下げ。

14日（木）　９トレンチ土層断面実測。12～14トレンチ土層断面実測・写真撮影。15・16・17～19トレンチ縄文時代早期層の掘り下げ17～19トレンチ遺物出土状況実測。３トレンチ遺構配置図実測。１～11トレンチ埋め戻し。

⑮トレンチ土層断面実測。㉑トレンチ遺構配置実測・埋め戻し。

15日（金）　15・16・19トレンチ土層断面実測・写真撮影。18・19トレンチ遺物出土状況写真撮影・実測・取り上げ。16・19トレンチ赤ホヤ層の剥ぎ取り。

掘り下げ終了。17・18トレンチ掘り下げ。「詳細分布地域」埋め戻し。

16日（土）　17・18トレンチ掘り下げ。17トレンチ遺物出土状況写真撮影・実測・取り上げ。18トレンチ赤ホヤ層の剥ぎ取り。17・18トレンチ土層断面実測・写真撮影の後，埋め戻し。

用具の確認・撤収。調査終了。

4．本調査

（平成７年）

５月８日（月）　南種子町建設課により調査区域（展望台７ｍ×７ｍ）の測量・設定。
作業用具の準備点検。作業手順・安全確保の注意。調査範囲の伐採。バックホウによる表土剥ぎ取り。赤ホヤ層までの剥ぎ取り。調査範囲の東側に溝状遺構を検出。実測及び写真撮影。赤ホヤ層剥ぎ取りの後，縄文時代早期包含層（Ⅴ層）の掘り下げ。

９日（火）　縄文時代早期包含層の掘り下げ。９点の遺物出土。原地形は北東から南西の方向に傾斜している。

10日（水）　早期包含層の掘り下げ。遺物出土状況写真撮影・実測。地形コンター実測。
遺物取り上げ。北東壁と南東壁の土層断面清掃・写真撮影・実測。
北東壁と南東壁側に下層確認のためのトレンチ２本設定・掘り下げ。

11日（木）　トレンチ２本掘り下げ。Ⅷ層からⅩ層をバックホウによる剥ぎ取り。トレンチ配置図実測。土層断面清掃・写真撮影・実測。

12日（金）　調査区域の清掃。完掘状況写真撮影。バックホウによる埋め戻し。
用具の確認・撤収。調査終了。

第２章　遺跡の位置と環境

石ノ峯遺跡は鹿児島県熊毛郡南種子町に所在する。

南種子町の所在する種子島は，大隅諸島の一つであり，大隅半島南端の佐多岬の南東約40kmの洋上に浮かぶ南北52km，幅12kmの細長い島である。

南種子町は，種子島の南部を占め，北は中種子町と接し，他の東西南が海に面している面積110.37㎢の町である。

南種子町の地形は，内陸部は海抜200ｍ内外の丘陵地帯で，平坦な台地を形成している。これらの平坦地は，牧草地・耕作地として利用されているが明治以降の開拓によるものが多い。また，台地上には湧水やため池が点在し，水田耕作も行われている。島間から門倉崎にかけての西海岸は海岸段丘で中央部の台地とは急傾斜で分けられる。東海岸は著しく開析をうけ谷系が良く発達している。南端の門倉岬は，1543年に鉄砲の伝来した地として有名で，南東海岸には我が国最大の宇宙開発基地種子島宇宙センターがある。

周辺の遺跡分布を見ると，旧石器時代には，日本最古と考えられる３万年前の礫群の発見で著名な横峯Ｃ遺跡(4)がある。また，縄文時代草創期の遺跡として，横峯Ｄ遺跡(5)がある。縄文時代早期の遺跡としては，赤石牟田遺跡(12)，長谷遺跡(13)，昭和62年に発掘調査を実施した小牧遺跡(11)，横峯Ｂ遺跡(3)などがある。前期の遺跡では，昭和62年に発掘調査を実施した平六間伏遺跡(10)，赤石牟田遺跡(12)がある。後期以降の遺跡としては，平成２年に発掘調査を実施した野大野Ａ遺跡(16)・茶木久保遺跡(37)・田尾遺跡(8)・一陣長崎鼻貝塚(23)がある。弥生時代になると，平山の広田海岸に面する砂丘に立地する埋葬遺跡で，113 体の人骨と多数の副葬品が出土した広田遺跡(25)が著名である。他には，平成３年に発掘調査を実施した松原遺跡(6)・本村塚の峯遺跡(20)・本村丸田遺跡(21)・本村宇都遺跡(22)・浜田嵐遺跡(24)がある。歴史時代では昭和60年に発掘調査を実施し，平安時代の掘立柱建物跡の検出された本村丸田遺跡(21)が知られている。

今回調査を実施した石ノ峯遺跡は，上中に所在する役場より約２km北上し，西之表に向かう国道58号の沿線に近い場所で，屋久島を望む標高約160ｍの小高い丘に位置する。遺跡は，更に北方の浄水場のある高台にまで広がりを確認できる。周辺は，南西方向にゆるやかな下りの傾斜を呈する丘陵地で，未整備ではあるが住宅建設の進む大宇都集落がある。東側は急傾斜地で，下方に原生林を思わせる森林が広がり，その谷間に水田が細長く開けている。遠方には太平洋と種子島宇宙センターが眺望できる。

【参考文献】

南種子町郷土誌編纂委員会	「南種子町郷土誌」		1987
南種子町教育委員会	「横峯遺跡」	南種子町埋蔵文化財発掘調査報告書(4)	1993
南種子町教育委員会	「松原遺跡」	南種子町埋蔵文化財発掘調査報告書(5)	1993

第１図　南種子町の遺跡分布図

第１表　遺跡地名表（１）

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
1	石ノ峯	中之上　石ノ峯	台地	縄文（早期）	石鏃・土器片	平成５年分布調査
2	横峯A	島間　横峯	〃	縄文	土器片	平成３年分布調査
3	横峯B	〃	〃	縄文	土器片	平成４年分布調査
4	横峯C	〃	〃	旧石器・縄文（早期）	礫群・石鏃・石斧・敲石・塞ノ神式・苦浜式・轟式	〃
5	横峯D	〃	〃	縄文（草創期）	隆帯文土器	平成７年分布調査
6	松原	茎永　松原	平地	縄文・弥生・奈良・平安	土師器・集石・須恵器・青磁・市来式・丸尾式・指宿式・石斧・磨石・石皿	平成４年発掘調査
7	下鹿野	島間　下鹿野	台地		石鏃	平成２年分布調査
8	田尾	島間　田尾	〃	縄文（後期）	市来式・磨製石斧・磨石・敲石・石皿	表面調査による出土
9	上妻城跡	島間　向方	〃	中世		中世城館跡（昭和58年県文化課調査）
10	平六間状	中之上　平六間状	〃	縄文	土器片・石斧	昭和62年発掘調査
11	小牧	中之上　小牧	〃	縄文（早期）	塞ノ神式・磨石	
12	赤石牟田	中之上　赤石牟田	〃	縄文（早期・前期）	曽畑式・塞ノ神式・石鏃・黒曜石片・石匙・石斧・集石	平成４年分布調査
13	長谷	長谷	〃	縄文（早期）	吉田式	〃
14	上里城跡	茎永　上里	〃	中世		中世城館跡（昭和58年県文化課調査）
15	野大野	西之	〃	縄文（後期）	市来式・磨製石斧・敲石	表面調査による出土
16	野大野A	中之下　野大野	〃	〃	一湊式・敲石・磨石・石皿	平成２年発掘調査
17	上瀬田A	中之下　上瀬田	〃	縄文	土器片	〃
18	上瀬田B	中之下　上瀬田	〃	〃	〃	昭和63年分布調査
19	田代	西之	〃	縄文（前期）	塞ノ神式・土器片	表面調査による出土 平成７年分布調査
20	本村　塚の峯	西之　本村　塚の峯	斜面地	弥生（後期）	弥生土器片	
21	本村　丸田	西之　本村　丸田	台地	縄文（前期） 弥生（後期） 平安	指宿式・市来式・曽畑式・石斧・磨石・弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器	昭和60年分布調査
22	本村　宇都	西之　本村　宇都	斜面地	弥生（後期）	弥生土器	
23	一陣長崎鼻貝塚	中之下　一陣	砂丘	縄文（晩期）	黒川式・磨製石斧 骨製髪飾り・骨錐 貝輪・人魚骨・貝類	昭和31年発掘調査

第１表　遺跡地名表（２）

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
24	浜田嵐	平山　浜田　嵐	平地	縄文・弥生（中期）	縄文土器・弥生土器（須玖式）	
25	広田	平山　広田	砂丘	弥生（中期） 〃（後期） 古墳（前期）	弥生土器・人骨113体余・貝製品・紡錘車・石錐・鉄製釣針・獣魚骨・貝類	昭和32～34年調査 理等考古学論叢(1983)、日本考古学協会第29回総会、福岡医学雑誌(1962)第53巻7号
26	銭亀	西之　銭亀	台地	縄文（早期）	土器片	平成４年分布調査
27	駒取野	西之　駒取野	〃	〃	〃	〃
28	西之大宮田	西之　大宮田	砂丘	中世	染付・土師器	〃
29	真所汐入	中之下　東真所汐入 西真所汐入	〃	〃	染付・青磁・白磁・土師器	〃
30	友心汐入Ａ	茎永　友心汐入	〃	〃	土師器	〃
31	友心汐入Ｂ	〃	〃	〃	〃	〃
32	安久保	平山　安久保	台地	縄文（早期）	吉田式土器	〃
33	福ヶ野Ａ	平山　福ヶ野	〃	縄文	土器片	〃
34	福ヶ野Ｂ	〃	〃	縄文（前期・後期）・古墳	縄文土器・成川式土器	〃
35	有尾	中之上有尾	〃	縄文	土器片	平成７年分布調査
36	摺久保	中之上　摺久保	〃	弥生	〃	平成６年分布調査
37	茶木久保	島間　茶木久保	〃	縄文（後期）	土器片・石鏃	〃
38	ヌカス	平山　ヌカス	〃	中世		〃
39	高峯	島間　高峯	〃	縄文	土器片	平成７年分布調査
40	龍安坂	西之　龍安坂	〃	縄文（早期）	前平式土器	〃
41	北野天神	島間　小平山	〃	古墳	土器片	〃
42	藤原小田	島間　藤原小田	〃	縄文（後期）	〃	〃
43	新牧	西之　新牧	〃	縄文	〃	〃
44	今平	西之　今平	〃	〃	〃	〃
45	塩浦口	西之　塩浦口	〃	〃	〃	〃
46	橋久保	西之　橋久保	〃	〃	〃	〃
47	上松原汐入	茎永　上松原汐入	砂丘	中世	製塩土器	平成４年分布調査
48	松原山	茎永　松原山	〃	縄文	台石	〃
49	上平	平山　上平	台地	縄文(前期)・中世	縄文土器・石鏃・青磁	〃
50	西大曲	中之下　西大曲	〃	縄文	土器片	平成７年分布調査
51	鰐口	中之下　真所		応永		(県)昭42.3.31考古資料

第３章　調査の概要

第１節　基本土層について

石ノ峯遺跡の基本的な層位は以下のとおりである。

第Ⅰ層　灰黒褐色土層　・・・・・・耕作土
第Ⅱ層　黒褐色土層
第Ⅲ層　暗黄褐色土層
第Ⅳ層　黄褐色土層　・・・・・・いわゆるアカホヤ火山灰
第Ⅴ層　明茶褐色土層　・・・・・・縄文時代早期後半の遺物包含層
第Ⅵ層　暗茶褐色土層
第Ⅶ層　茶褐色土層
第Ⅷ層　黄褐色土層
第Ⅸ層　黒褐色土層

調査対象区域が23,587㎡と広域にわたり，地形もかなり変化があることから，基本的な土層の把握が困難であった。特に南部地域の高所や東部の削平箇所では，現地表から数10㎝で礫層が見られ，この地域における地層の堆積には細やかな条件が様々に作用していることが予想された。そのような中で，いわゆるアカホヤ火山灰層（第Ⅳ層）をメルクマールとして基本的な土層を整理したのが上記の層序である。次節の各トレンチの概要では，これらの層序（第Ⅰ～Ⅸ層）を基本とするが，いずれにも該当しない土層についてはその色調名を中心とした特徴を記した。

第２節　各トレンチの概要

本遺跡での発掘調査は詳細分布調査・確認調査・本調査の３段階に分けることができる。その際に調査したトレンチの位置を示したのが第３図である。

トレンチ番号①～⑳が詳細分布調査で，１～19が確認調査でそれぞれ対応したものである。また，本調査区域については図面上に「本調査区」と記している。

まず，詳細分布として行った調査の概要について述べてみたい。詳細分布調査ということで，すべてのトレンチでまず重機による掘り下げを行った。その結果，①～⑳のトレンチからは１点の遺物も出土しなかった。ただし，②・⑧・⑳トレンチでは遺構が検出されたため，調査面積を拡張して調査を行った。遺構は埋土をやや灰色を帯びた黒褐色とし，第Ⅲ層から第Ⅳ層にかけて掘り込んだもので，溝状遺構と柱穴状ピットが検出された。遺構内はおろか周辺においても遺物が皆無のため時期把握に苦慮したが，掘り込みと埋土の境が明瞭なことや埋土の色調等から近現代のものとして判断し調査を終了した。その性格については不明である。

次に確認調査について概要を説明したい。確認調査は，分布調査において遺物を採集することができた調査対称区東側について行った。１～19のトレンチを設定したが，遺物が出土したのは６～９，11・12・14・17～19のトレンチであった。

この確認調査対象地域は，全対象区の中で最も標高の高い部分を占めている。ただし，１～５

トレンチの周辺の原地形は，現状よりさらに高かったらしく，岩盤となる礫層がすぐのぞくという状況であった。現代に行われた畑地開墾による削平のためと考えられる。この区域では，分布調査の際に土器片や磨製石鏃等を採集しており，確実に遺物包含層が存在していた可能性が高い。

さて，かろうじて遺物包含層が残存していたトレンチについて説明したい。遺物はすべて第Ⅴ層からの出土で，縄文時代早期後半に位置づけられるものと考えられる。

6トレンチからは敲き痕をもつ磨石が出土しているが7トレンチと合わせて，焼石は出土するが土器の出土はなかった。

8トレンチでは平栫式土器と考えられる胴部片が1点出土している。また，磨石類も2点出土した。

9トレンチは，今回の調査で最も多くの遺物を出土したトレンチで，総数44点を数えた。いわゆる塞ノ神式土器片が多く見られるが，河口貞徳氏が分類された塞ノ神式のA式およびB式の両方の型式の土器が出土している。土器片の諸特徴から，数十点の土器片は3個体程度におさまるものと考えられる。

また，このトレンチからは石皿が3点，磨石・敲石類が5点と10㎡（2×5m）という面積にしては多くの石器が出土したのも大きな特徴である。これだけの調理具が集中していることから，住居跡等の遺構の存在が予想されたが，残念ながら確認できなかった。

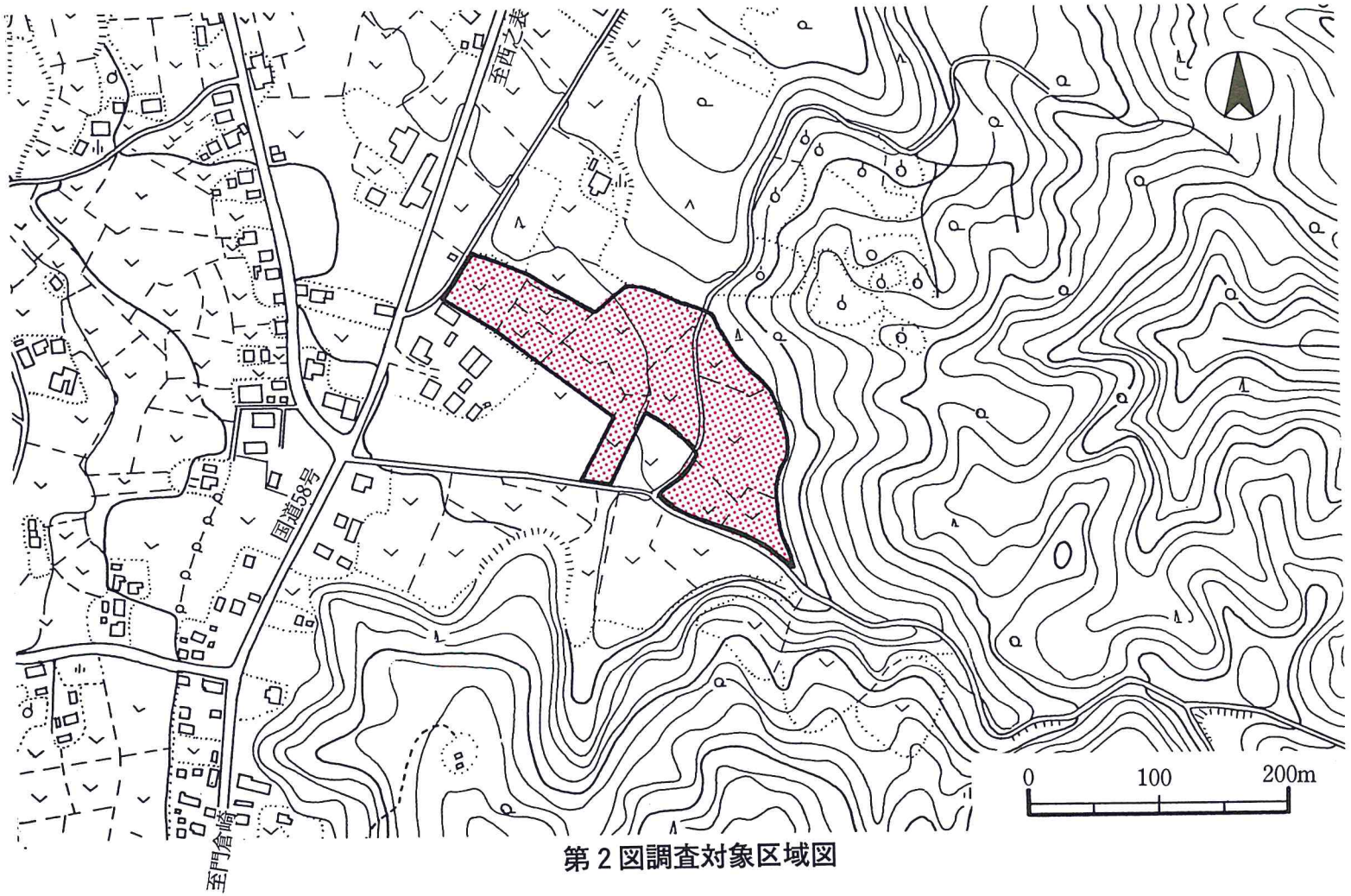
トレンチ周辺からも比較的多く遺物が採集できることから，9トレンチ周辺は，本遺跡の中心的な場所にあると言えよう。ただし，9トレンチの東側は断崖絶壁となっており，現状から遺跡の広がりを想像するには極めて困難が伴う。断崖の端にある土手の土層中にも遺物が散見されることや，断崖に近い14トレンチからも遺物が出土していることから，遺跡はさらに東へ広がっていたが，数千年の間に崖が崩壊していったと考えられよう。

12トレンチからは，塞ノ神B式土器と考えられる胴部片が出土している。

15，16トレンチからは遺物が出土しなかった。遺物包含層に該当する第Ⅴ層は，この2トレンチあたりから東南部へやや傾斜していることから，遺跡の範囲もこの付近に境界線があるものと考えられる。

17トレンチからは磨製石鏃と重量20kgを測る石皿の完形品が出土した。磨製石鏃は，最大長1.45cmの小形三角鏃で，側辺を鋸歯状に仕上げている。このトレンチからは，塞ノ神B式土器と考えられる底部片が出土していることから，磨製石鏃もほぼその時期と考えるのが妥当であろう。

18・19トレンチからも量は少ないが遺物が出土した。19トレンチからは復元口径が11.4cmを測る塞ノ神B式土器の口縁部片が出土している。塞ノ神B式土器と呼ばれる土器は，器のスケールという点でバリエーションが豊富であるという特徴があるが，この資料はまさにその中の最小クラスのものとして貴重である（なお，本遺跡の塞ノ神B式土器では，9トレンチから復元口径36.2cmの口縁部片が出土している）。

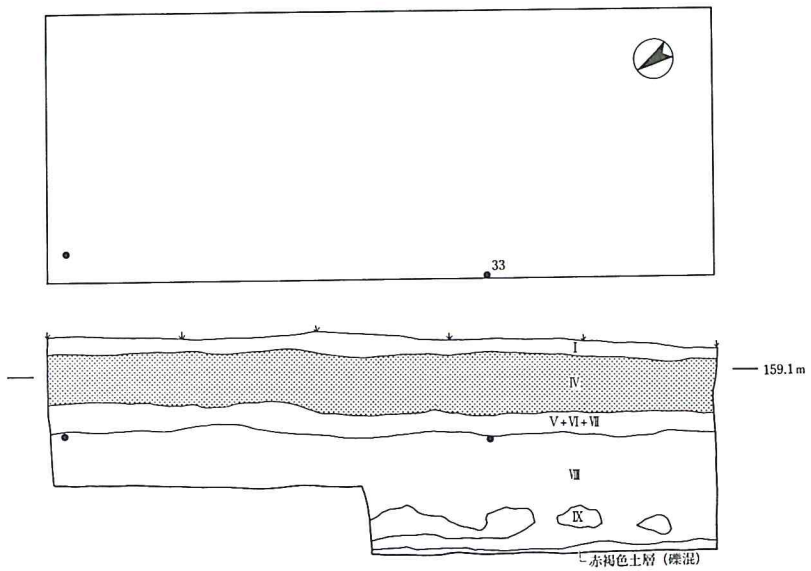


第２図調査対象区域図

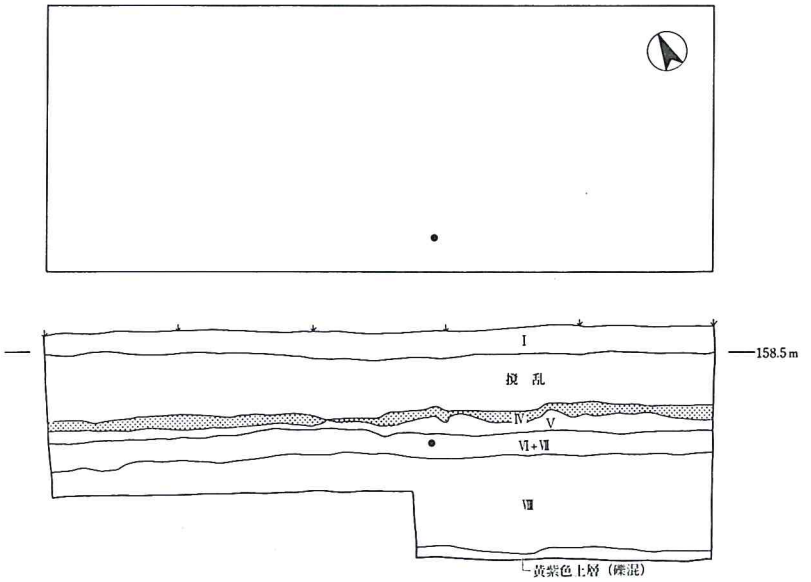
国道58号
①T
②T
③T
④T
⑤T
⑥T
⑦T
⑧T
⑨T
⑩T
⑪T
⑫T
⑬T
⑭T
⑮T
⑯T
⑰T
⑱T
⑲T
⑳T
㉑T
1T
2T
3T
4T
5T
6T
7T
8T
9T
10T
11T
12T
13T
14T
15T
16T
17T
18T
19T
本調査区
150
155
160
140
145
150
155
0
100m

第3図　トレンチ配置図

第6トレンチ

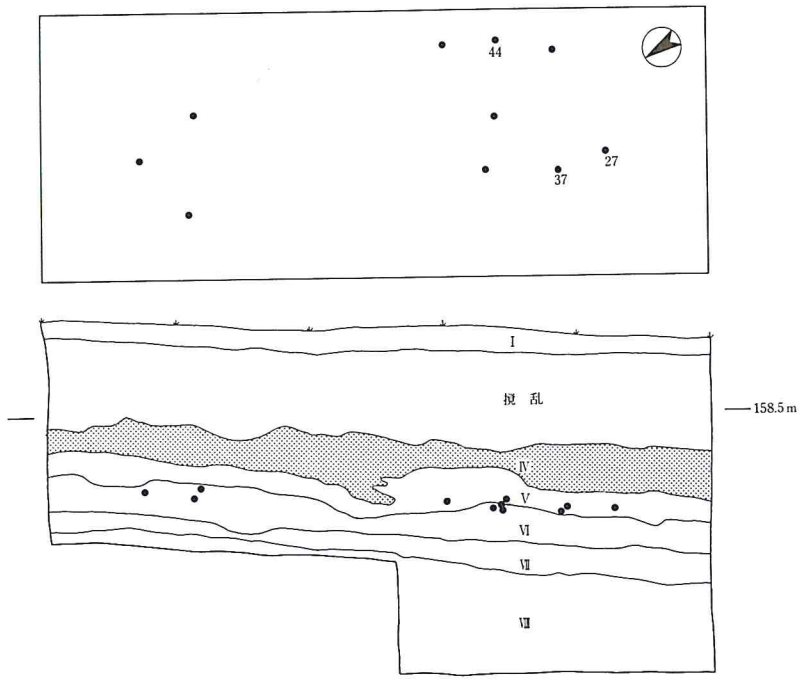


第7トレンチ

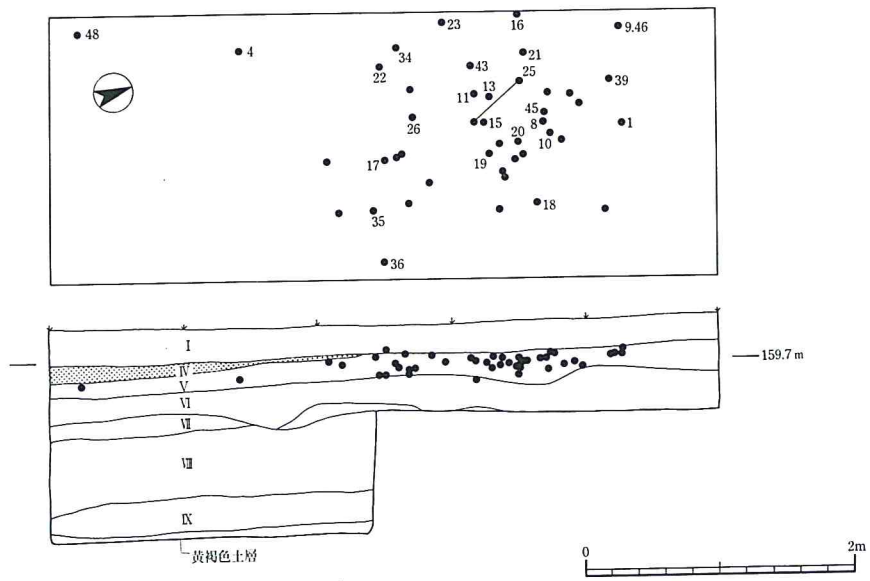


第4図　各トレンチ平面図・土層断面図（1）

第８トレンチ

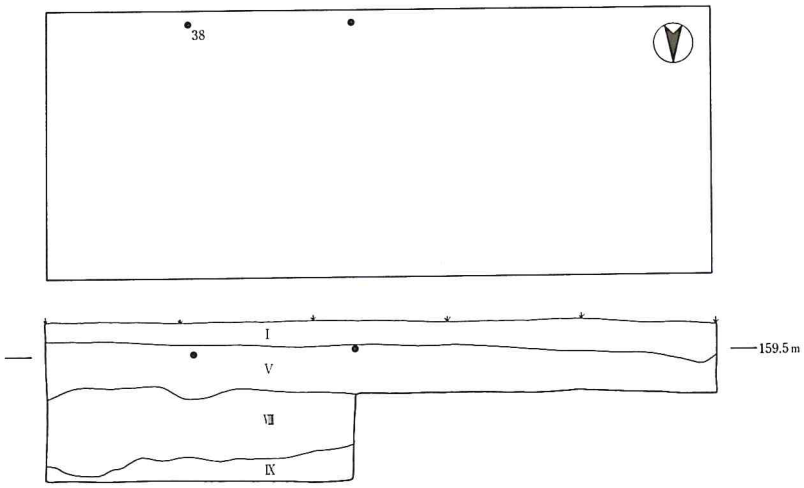


第９トレンチ

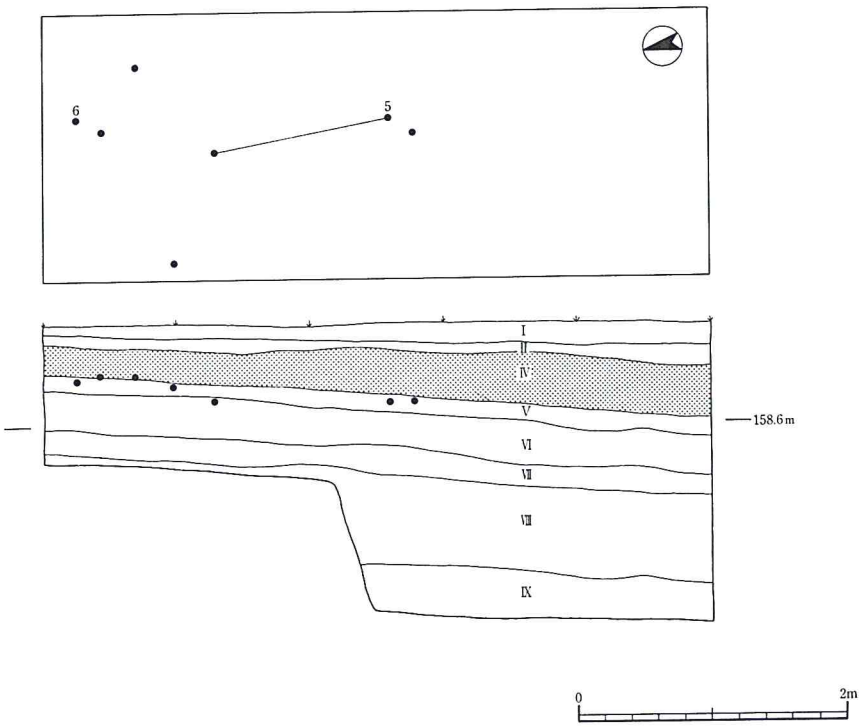


第５図　各トレンチ平面図・土層断面図（２）

第11トレンチ

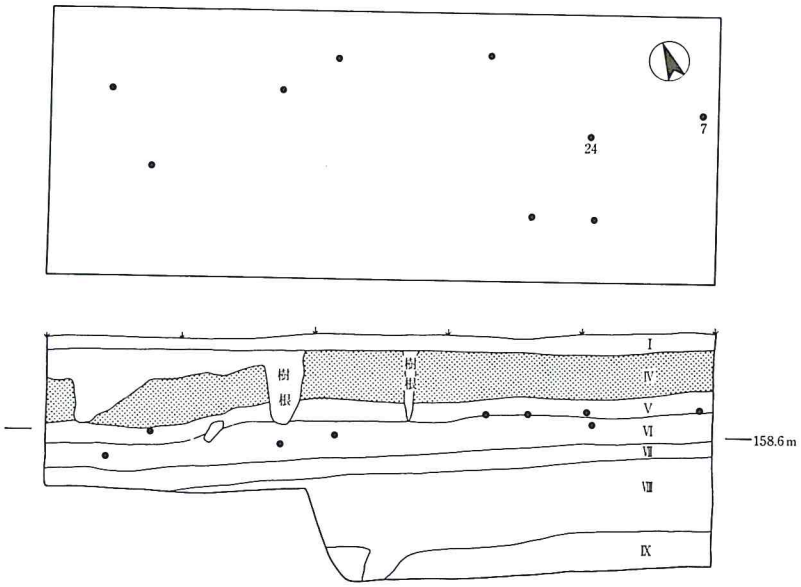


第12トレンチ

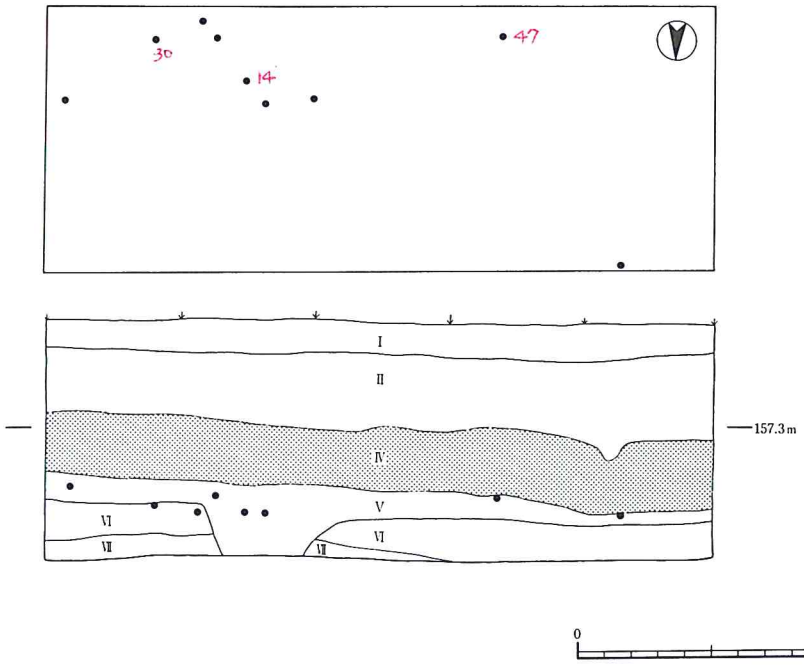


第６図　各トレンチ平面図・土層断面図（３）

第14トレンチ

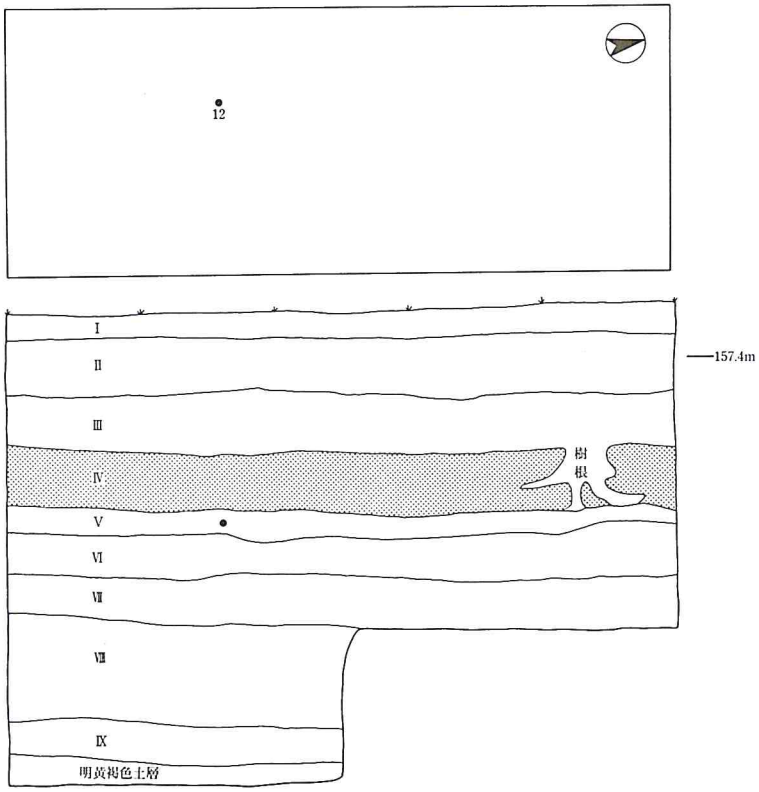


第17トレンチ

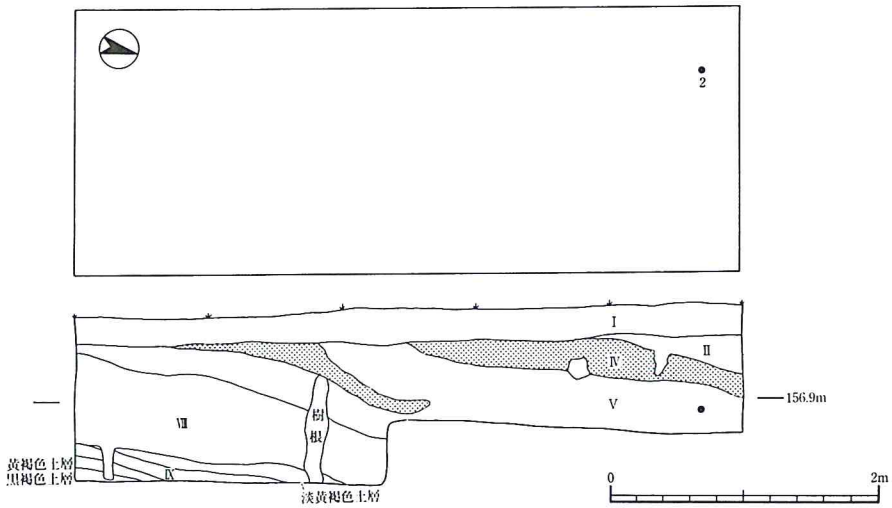


第７図　各トレンチ平面図・土層断面図（４）

第18トレンチ



第19トレンチ

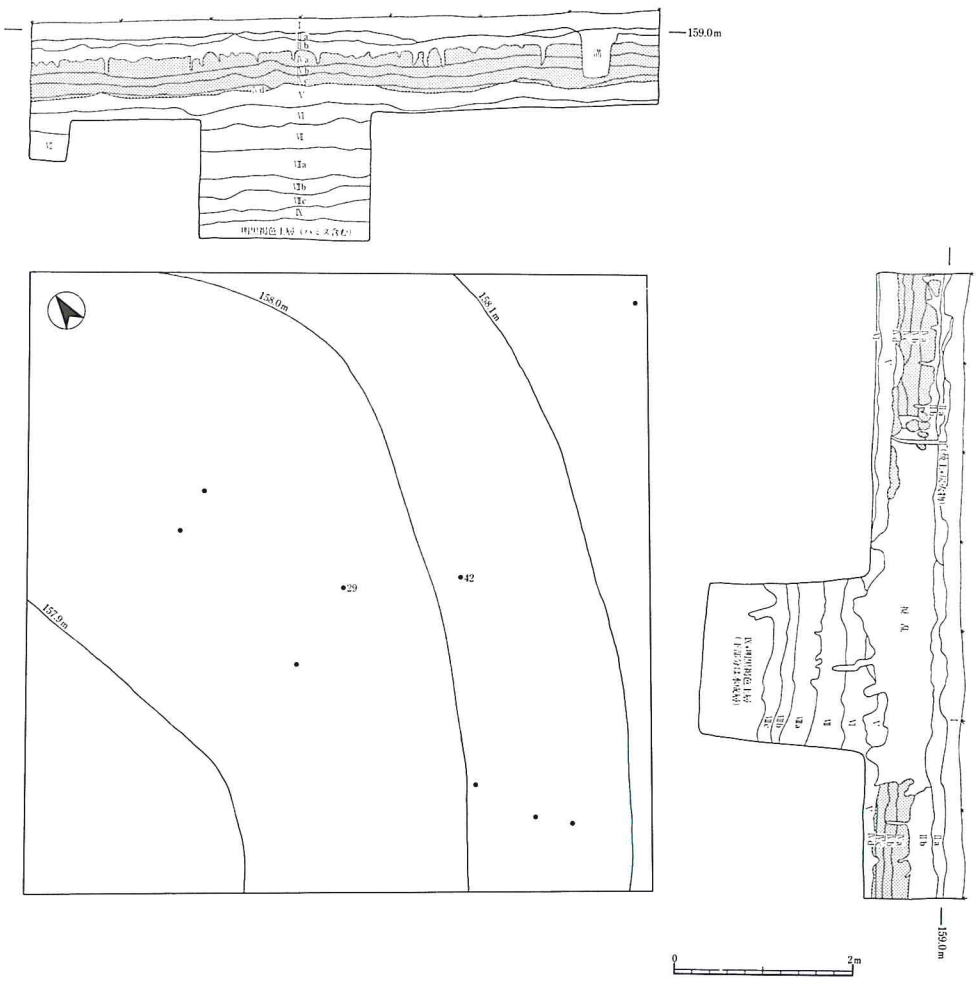


第8図　各トレンチ平面図・土層断面図（5）

本調査区は，展望台が建設される49㎡（７×７ｍ）について行った。この区域は，確認調査において遺物が出土した12，14トレンチと出土しなかった11，15トレンチのほぼ中央に位置している。このことは，遺跡の範囲すれすれの区域であるということで，調査前から遺物の有無がやや懸念されたが，やはり出土遺物は７点（いずれも第Ⅳ層）と少なかった。

７点のうちの５点は焼石であったが，残りの２点は磨石と磨製石鏃であった。確認調査で得られた情報の中から，本遺跡から出土する石器の特徴として，磨石・敲石類や石皿などの調理の出土は，まさにそれを象徴するものであったと言えよう。特に磨製石鏃の出土は，本遺跡の最大の情報であろう。

本 調 査 区



第９図　本調査区平面図・土層断面図

第3節　出土遺物

（1）土　器

確認調査および本調査で出土した遺物のうち，図化できた土器片は総数27点であった。これらはすべて第Ⅴ層からの出土で，縄文時代早期後半に該当するものである。このうち，塞ノ神式土器と考えられるものが26点で1点のみ平栫式土器が出土している（第10，11図）。

出土土器観察表からもわかるように，遺物の多くは9トレンチからの出土である。それらのうちの数点は，接合しないものの同一固体の可能性が高いものを含んでいる。

1は今回の調査で最も大きな土器片で復元口径36.2cmを測る。口縁部および胴部に櫛状の工具(貝殻腹縁部？）による横位および斜位の沈線文状の文様を施している。やや平坦面を持つ口縁部には，二枚貝の貝殻腹縁部による連続刺突文を施している。

2は復元口径11.4cmの小形の土器である。口縁部から頸部にかけて貝殻腹縁部による横位の連続刺突文が3段施され，胴部には同施文具（？）による斜位の沈線文がみられる。また，口縁部にも同施文具による連続刺突文が施されている。

3，4は頸部片であるが，2と同様に貝殻腹縁部による連続刺突文が施されている。小片のために詳細は不明であるが，器壁が比較的厚いことからやや大形の土器であると考えられる。

5～10，12，13の胴部片は沈線の施されたものである。文様構成から見て，これらは1あるいは2のような形態の土器の胴部になるものと考えられるが，1と同様に9トレンチから出土している8～10，13は同一固体の可能性が高い。11は無文の胴部片である。

14，15は底部片である。それぞれ復元底径が6.2cm，6.8cmを測るものである。共に胴部に沈線文がみられ1～13のような土器の底部になるものと考えられる。

16，17は沈線文の施された口縁部片である。1～13の土器と比べて，器壁が薄く，沈線の幅も狭くて浅い。17の口唇部には篦状工具による刻み目が連続して施されている。

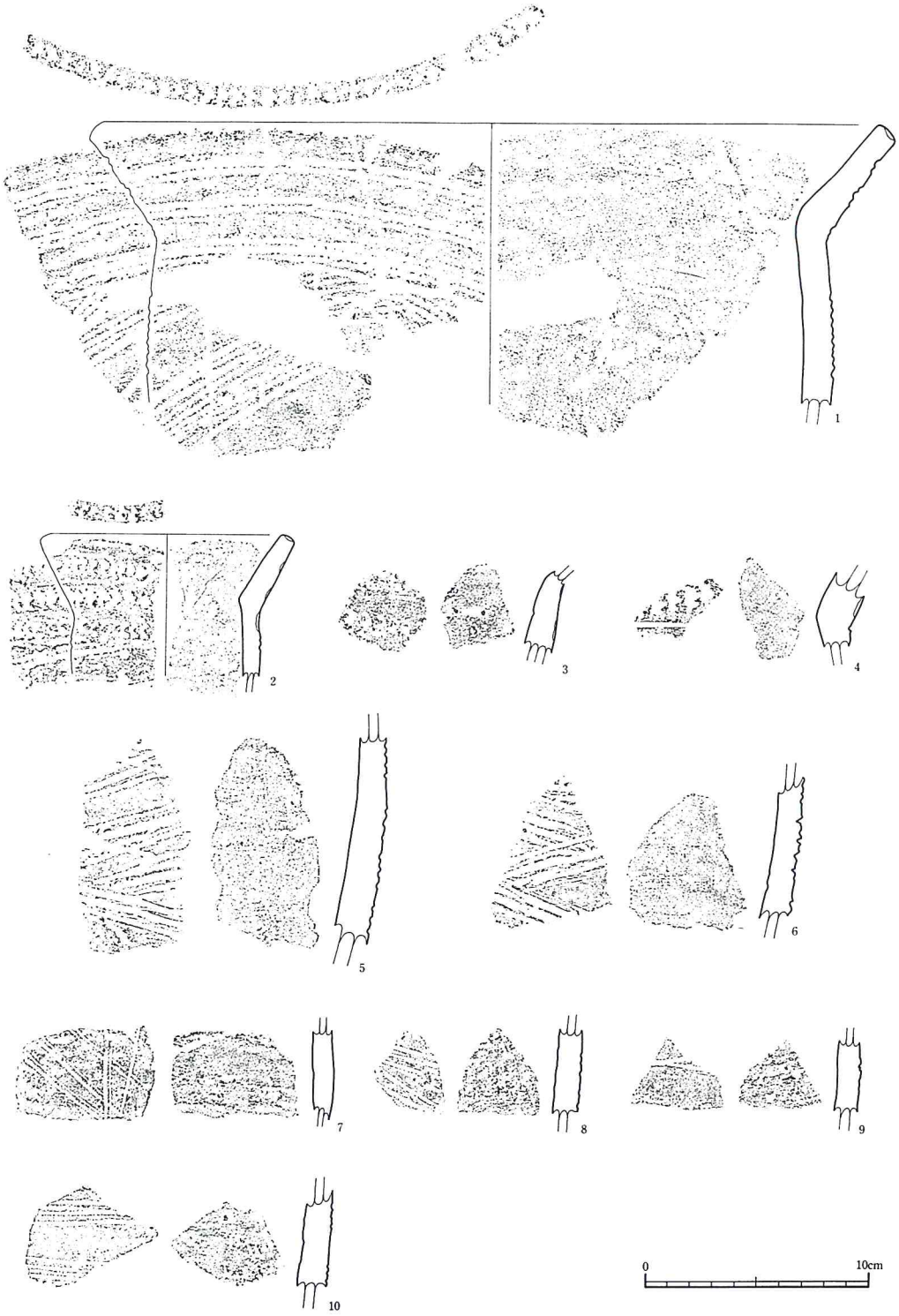
18，19は頸部片，20～23，25，26は胴部片であるがいずれも比較的薄手で，16，17と同じ範疇の土器であろうと考えられる。

25，26の胴部片には網目の撚糸文が縦方向に施されている。文様自体，細くて浅いことから26などの文様は，かろうじて判別できる程度である。

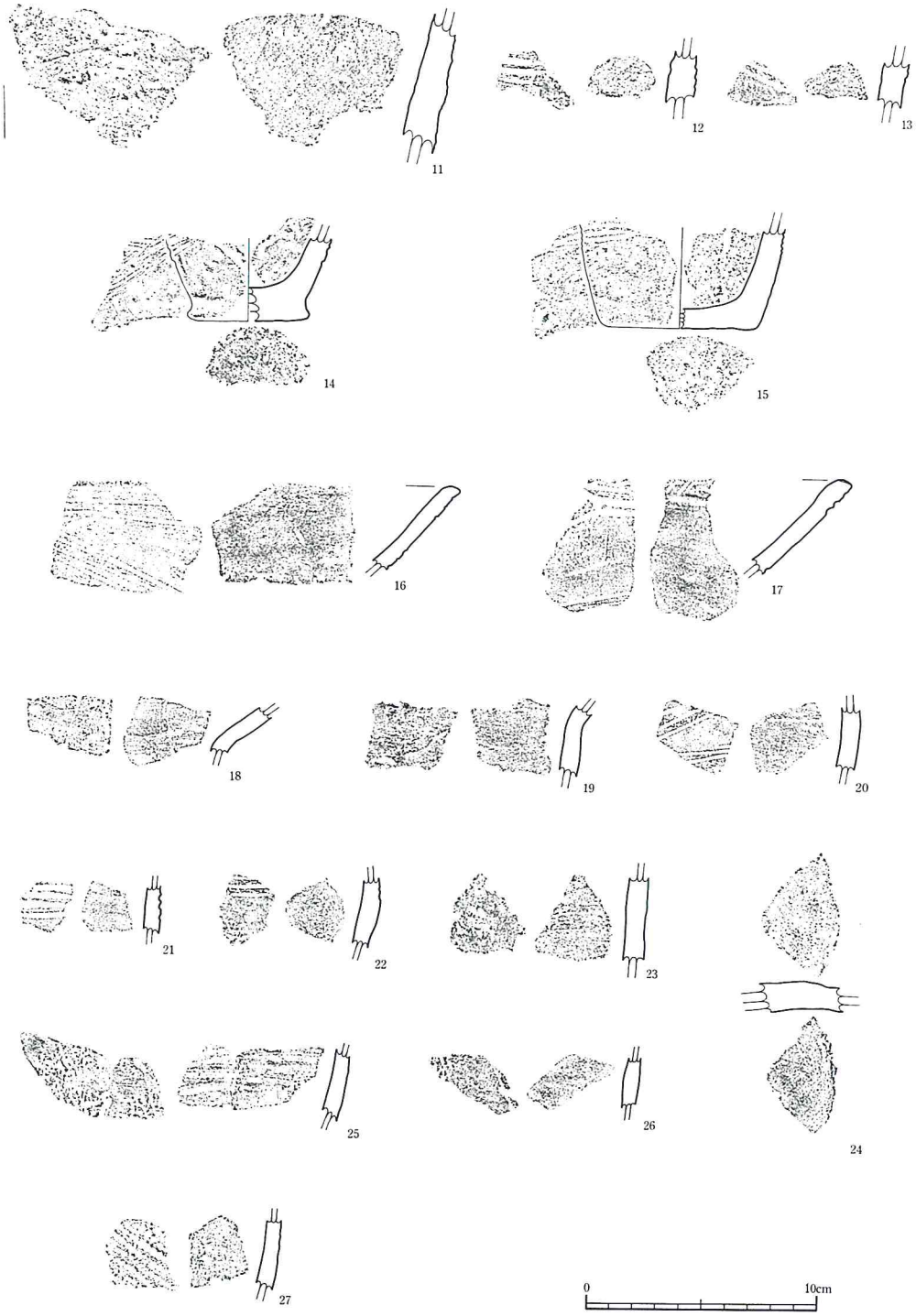
24は上げ底を呈すると考えられる底部片である。ほぼ底部の中心部のみの出土のため，底径等は不明であるが，この上げ底を呈するという特徴から16～26にみられる形態の土器の底部になる可能性が高い。これら16～26の土器片は，24の底部を除くすべてが9トレンチから出土しており，同一固体と考えられる（24は14トレンチ出土）。

以上，1～15は主として貝殻文（貝殻腹縁部を施文具とする）を施す土器群，また16～26は主として撚糸文を施す土器群という特徴をもつことから，それぞれ河口貞徳氏の言われる塞ノ神B式土器と塞ノ神A式土器の範疇に入るものと考えられる。

27の胴部片は，唯一縄文を施したもので，小片のため全体の形状は不明であるが，出土した層位等から平栫式土器の可能性が高い。



第10図　出土遺物（土器１）



第11図　出土遺物（土器2）

第3表　出土土器観察表

挿図	番号	器種	部位	トレンチ番号	層位	色調	胎土				焼成	備考
							石英	長石	鮪石	砂礫		
第10図	1	深鉢	口縁部	9	V	淡褐色	○	○		○	良好	塞ノ神B式
	2	〃	〃	19	〃	明茶褐色	○	○	○		〃	〃
	3	〃	頸部		表採	暗褐色	○	○		○	〃	〃
	4	〃	〃	9	V	〃	○	○			〃	〃
	5	〃	胴部	12	〃	明茶褐色	○	○		○	〃	〃
	6	〃	〃	〃	〃	淡茶褐色	○	○			〃	〃
	7	〃	〃	14	〃	暗褐色	○				〃	
	8	〃	〃	9	〃	〃	○			○	〃	
	9	〃	〃	〃	〃	〃	○			○	〃	
	10	〃	〃	〃	〃	淡茶褐色	○	○	○		〃	
第11図	11	〃	〃	〃	〃	明茶褐色	○	○		○	〃	金雲母含
	12	〃	〃	18	〃	暗褐色	○			○	〃	〃
	13	〃	〃	9	〃	明茶褐色	○	○			〃	
	14	〃	底部	17	〃	〃	○	○			〃	塞ノ神B式
	15	〃	〃	9	〃	淡茶褐色	○	○		○	〃	〃
	16	〃	口縁部	〃	〃	〃	○				〃	塞ノ神A式
	17	〃	〃	〃	〃	〃	○				〃	〃
	18	〃	頸部	〃	〃	〃	○				〃	〃
	19	〃	〃	〃	〃	〃	○				〃	〃
	20	〃	頸部付近	〃	〃	〃	○				〃	〃
	21	〃	〃	〃	〃	〃	○				〃	〃
	22	〃	〃	〃	〃	〃	○				〃	〃
	23	〃	胴部	〃	〃	淡黄褐色	○			○	〃	
	24	〃	底部	14	〃	明茶褐色	○				〃	
	25	〃	胴部	9	〃	淡茶褐色	○				〃	塞ノ神A式
	26	〃	〃	〃	〃	〃	○				〃	〃
	27	〃	〃	8	〃	〃	○	○			〃	平栫式

（2）石　器

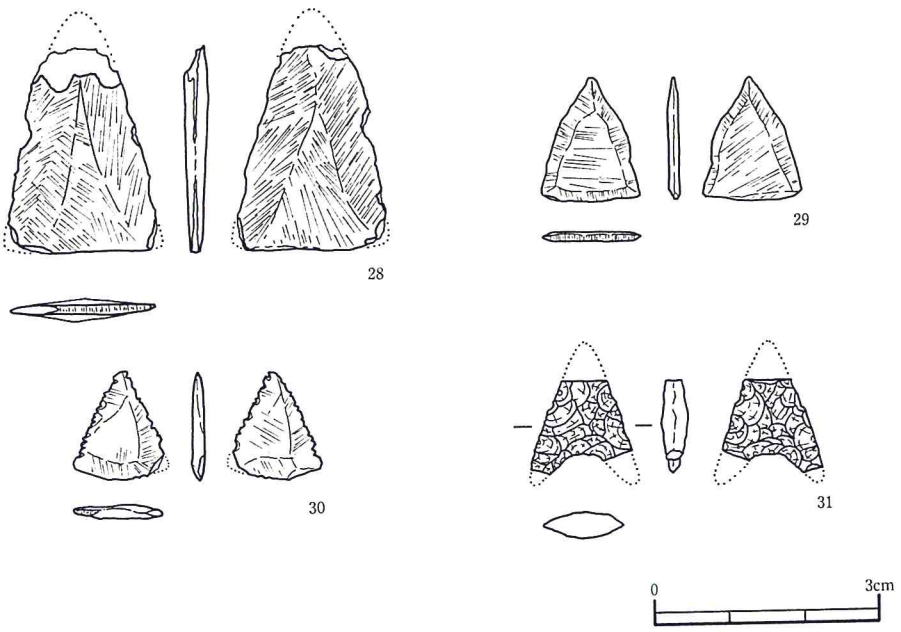
石器は総数21点出土した。その内訳は磨製石鏃３点，打製石鏃１点，磨石・敲石類が13点，石皿４点となっている（第12～16図）。表採の５点を除き，すべてⅤ層からの出土で，縄文時代早期後半のものと考えられる。

28～30は頁岩製の磨製石鏃である。28は二等辺三角形の形状を呈するものであるが，先端部が欠けている。表裏面ともに３面の研磨面を残す。29は最大長1.6cmの小形鏃でやや五角形状を呈する。表裏面ともに中央に広くて平坦な研磨面をもち，さらに３辺の端部を両面ともに丁寧に磨いている。30も最大長1.45cmの小形鏃である。一部を除きほぼ全磨製の鏃であるが，他の２点と異なり，２側辺を鋸歯状に仕上げている。また，基部がややふくらみをもつのも特徴としてあげることができる。近年，南九州の縄文時代草創期から早期にかけて，磨製石鏃の資料が増加しているが，本遺跡から出土した３点は，調査面積のわりに多く，また種子島の南部まで磨製石器文化の広がりを示すものとして貴重な資料であると言えよう。これらの磨製石鏃の時期であるが，出土土器からして塞ノ神式（特にB式）土器に伴う可能性が高い。

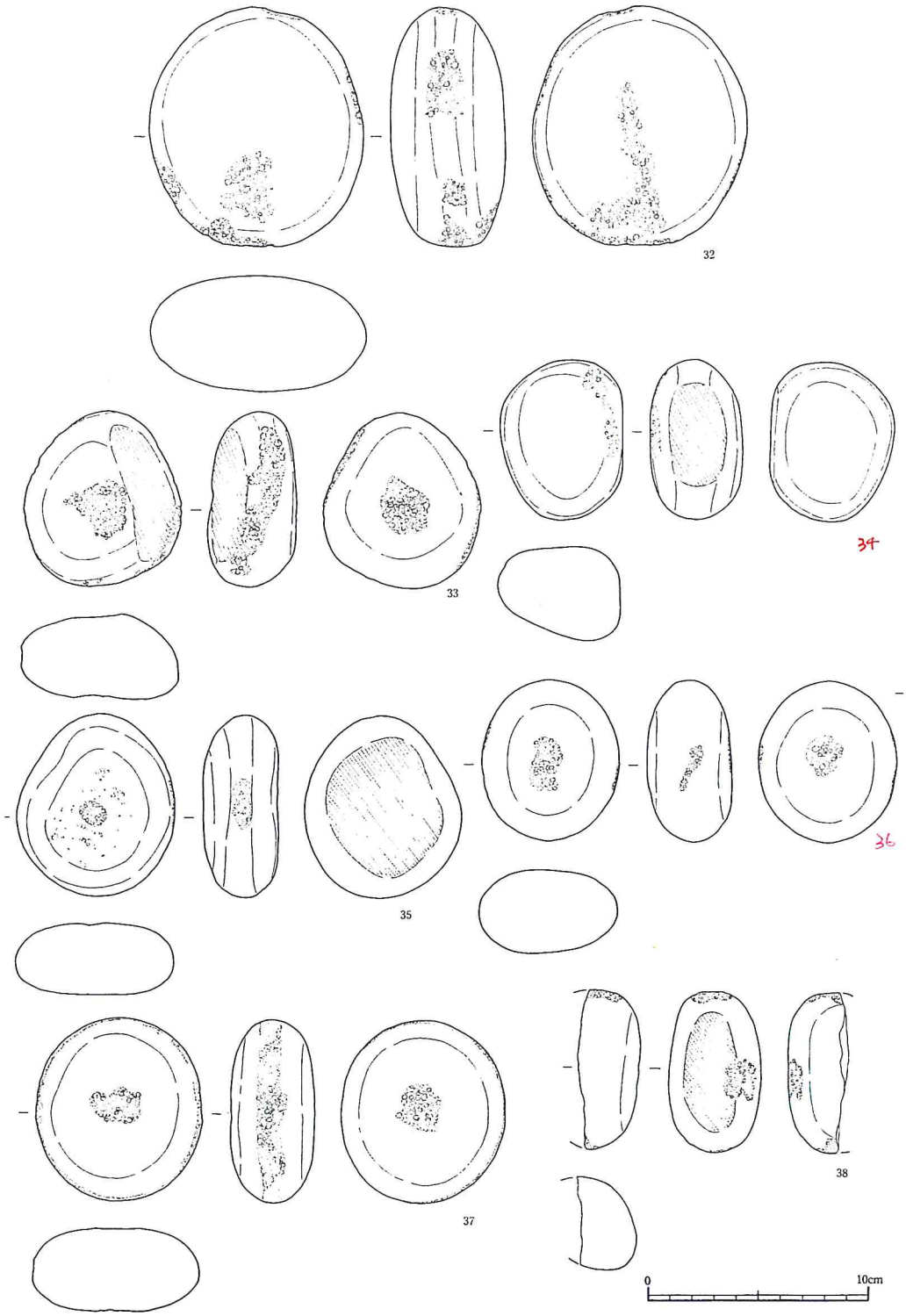
31は凹基式の打製石鏃である。頁岩製で表面はやや風化している。

32～44は磨石・敲石類である。すべて砂岩製のもので，磨き・敲きを共用しているものが多い。この類の石器が多いのもこの遺跡の特徴である。

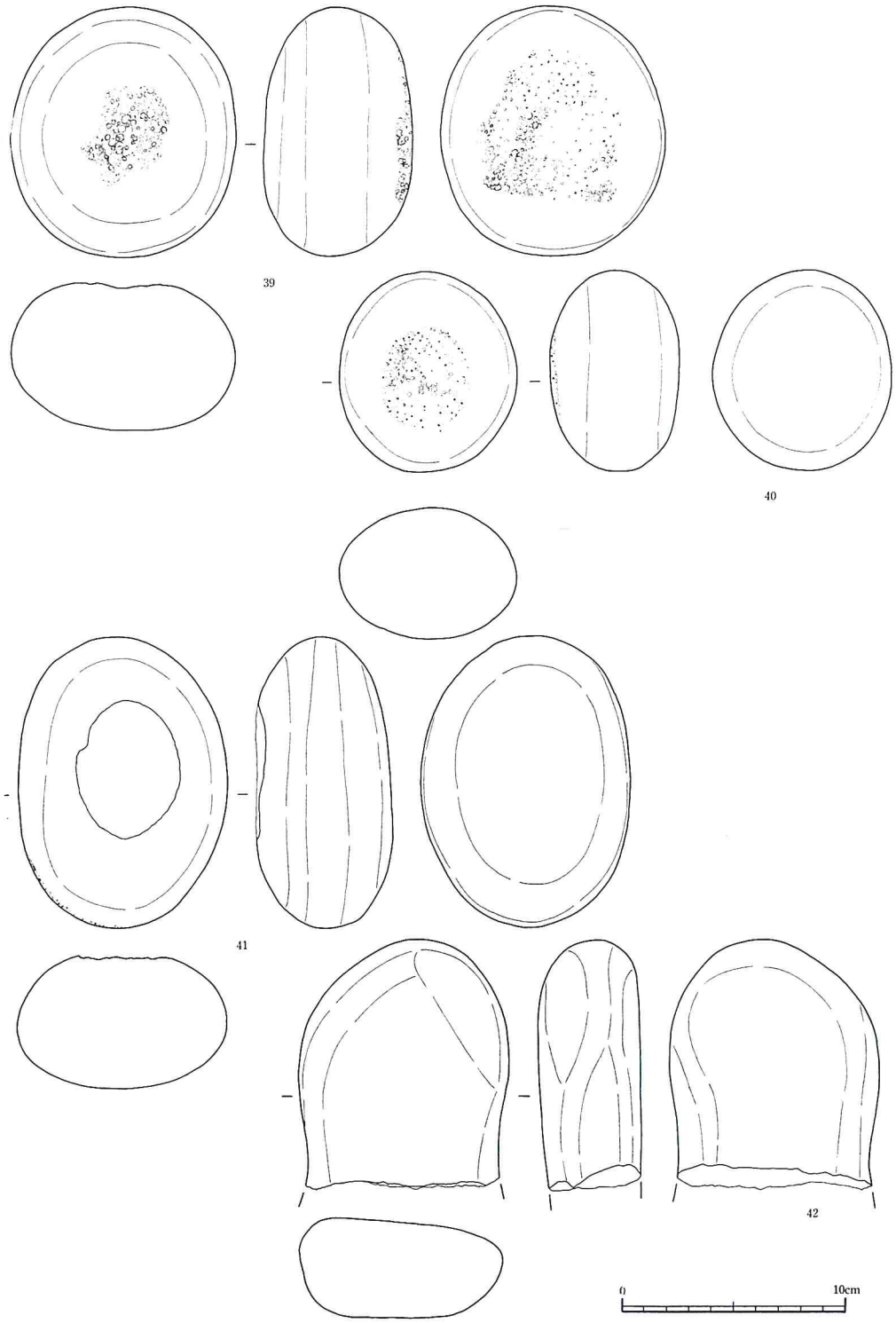
45～48は石皿である。47は大形で重さ20kgを測る。



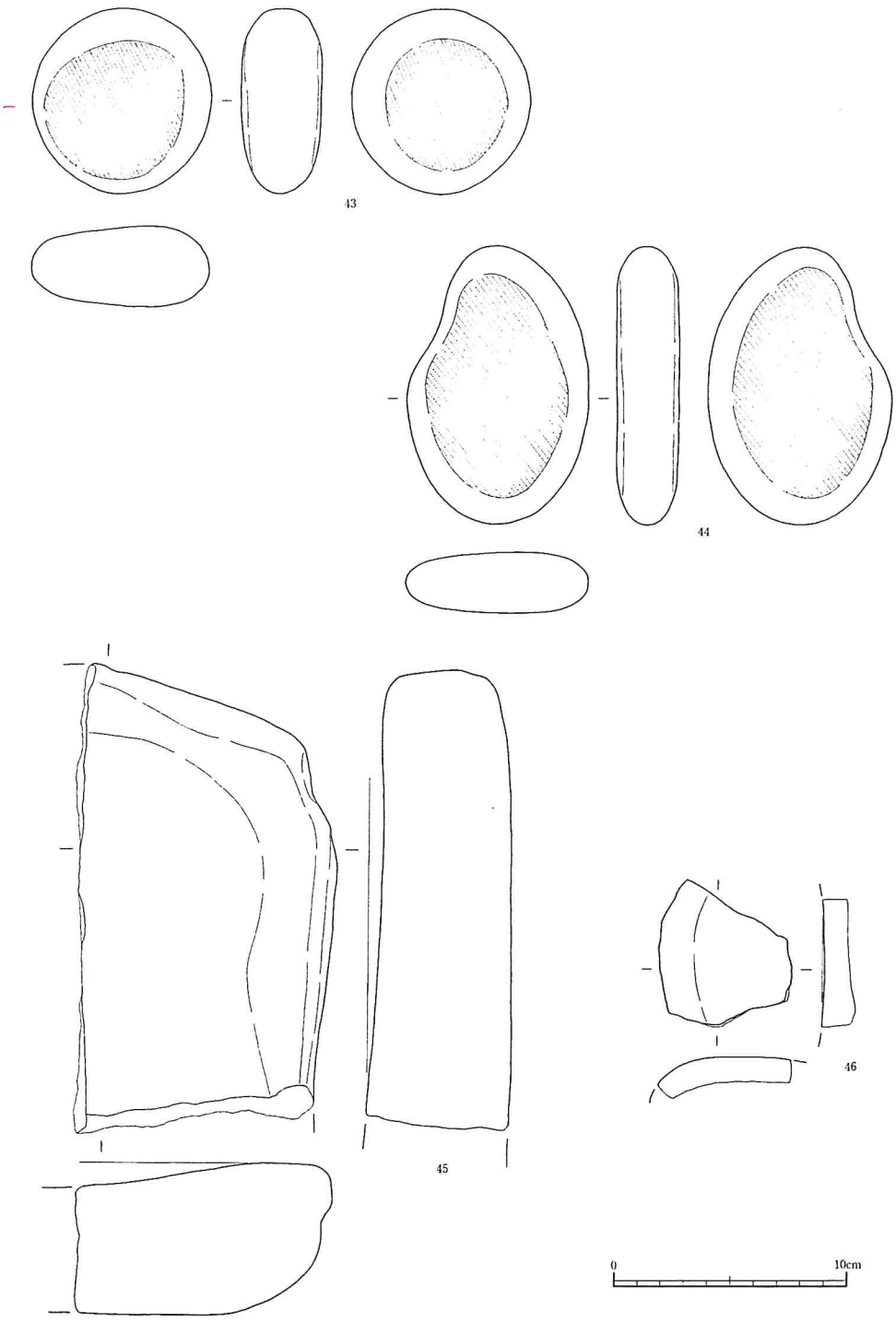
第12図　出土遺物（石器１）



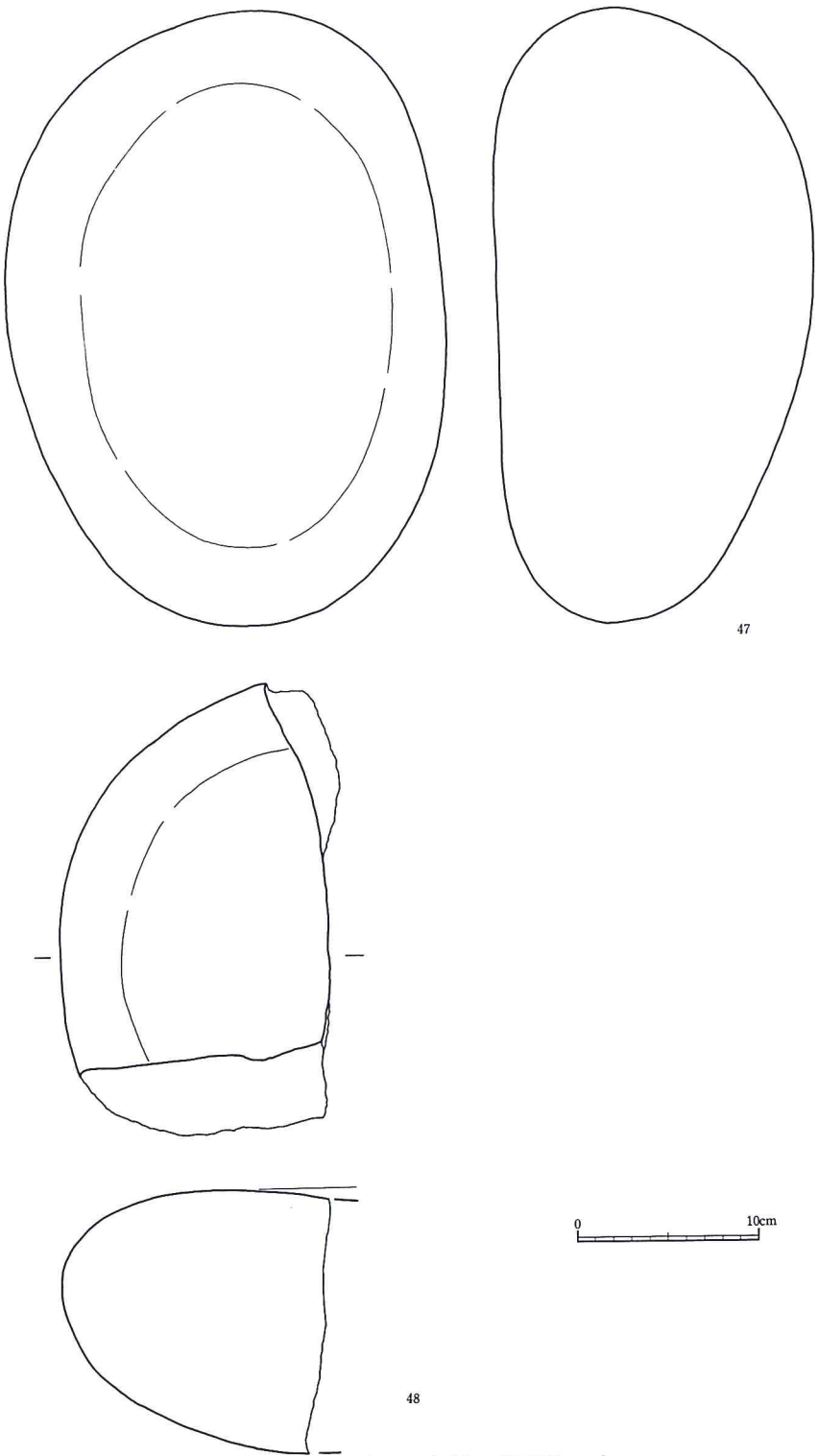
第13図 出土遺物(石器2)



第14図　出土遺物（石器３）



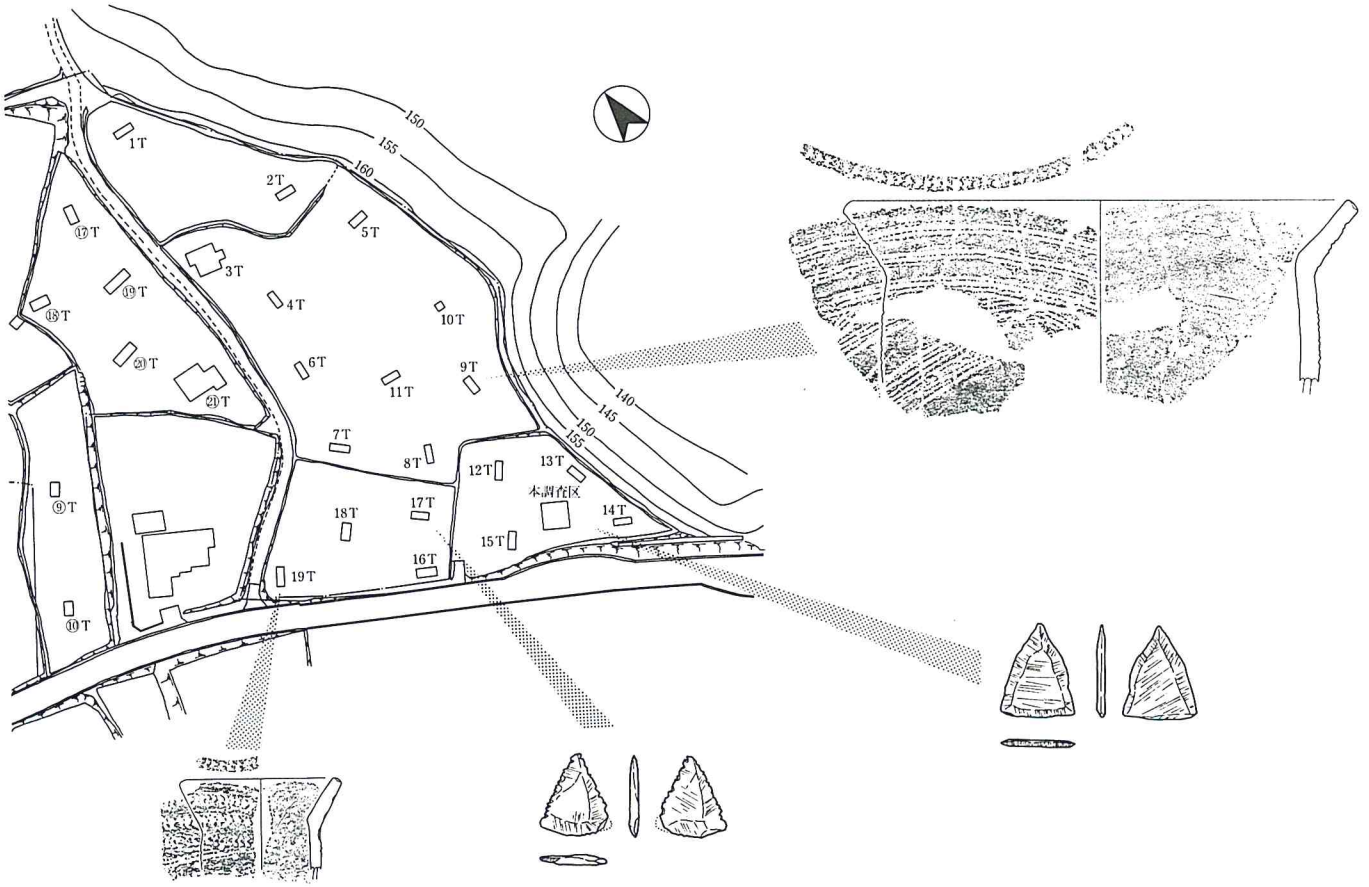
第15図　出土遺物（石器４）



第16図　出土遺物（石器５）

第4　出土石器計測表

挿図	番号	器種	石材	トレンチ番号	層位	最大長cm	最大幅cm	厚さcm	重さg
第12図	28	磨製石鏃	頁岩		表採	3.20	2.10	0.30	1.79
	29	〃	〃	本調査	V	1.60	1.30	0.15	0.41
	30	〃	〃	17	〃	1.45	1.20	0.20	0.29
	31	打製石鏃	〃		表採	1.90	1.45	0.35	0.50
第13図	32	敲石	砂岩		〃	10.90	9.70	5.25	805.
	33	敲石・磨石	〃	6	V	7.95	7.20	4.00	303.15
	34	〃	〃	9	〃	7.20	5.60	4.30	231.25
	35	〃	〃	〃	〃	8.40	7.20	3.40	256.71
	36	敲石	〃	〃	〃	7.40	6.25	3.80	240.75
	37	〃	〃	8	〃	8.35	7.50	3.80	330.89
	38	敲石・磨石	〃	11	〃	7.30	4.20	4.20	114.56
第14図	39	敲石	〃	9	〃	11.15	10.10	6.65	1.03(kg)
	40	敲石・磨石	〃		表採	9.00	8.00	5.85	550.
	41	磨石	〃		〃	13.10	9.40	6.10	1.08(kg)
	42	〃	〃	本調査	V	11.20	9.45	4.55	751.
第15図	43	〃	〃	9	〃	8.00	7.75	3.50	306.39
	44	〃	〃	8	〃	12.10	7.90	2.70	377.
	45	石皿	〃	9	〃	20.35	11.10	6.80	2.53(kg)
	46	〃	〃	〃	〃	5.70	6.10	1.55	63.80
第16図	47	〃	〃	17	〃	33.90	24.15	17.60	20.(kg)
	48	〃	〃	9	〃	24.70	14.85	14.40	7.32(kg)



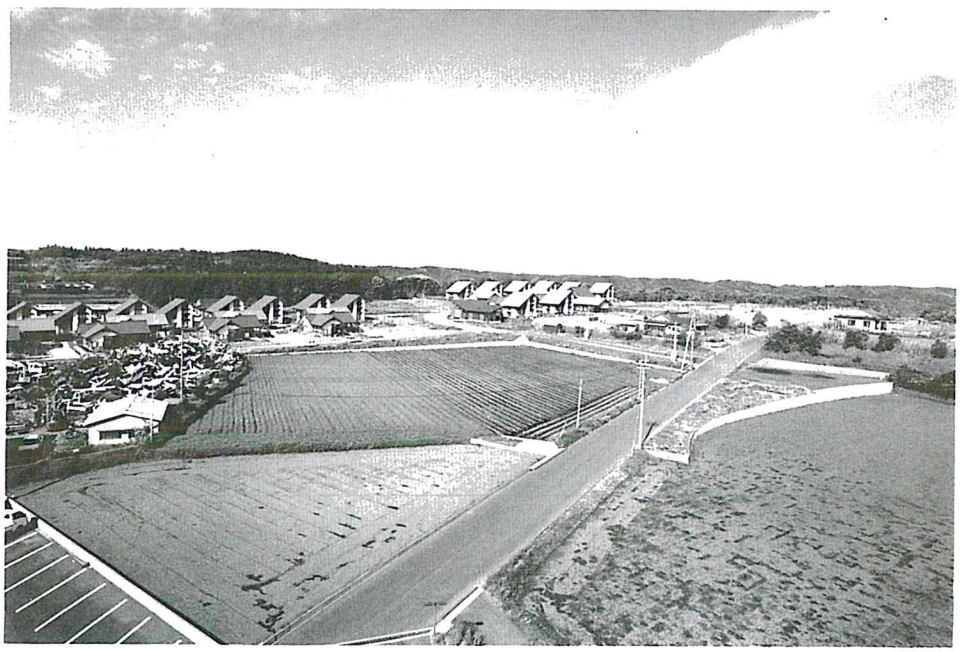
第17図　主な出土遺物位置図

第４章　調査後の経過

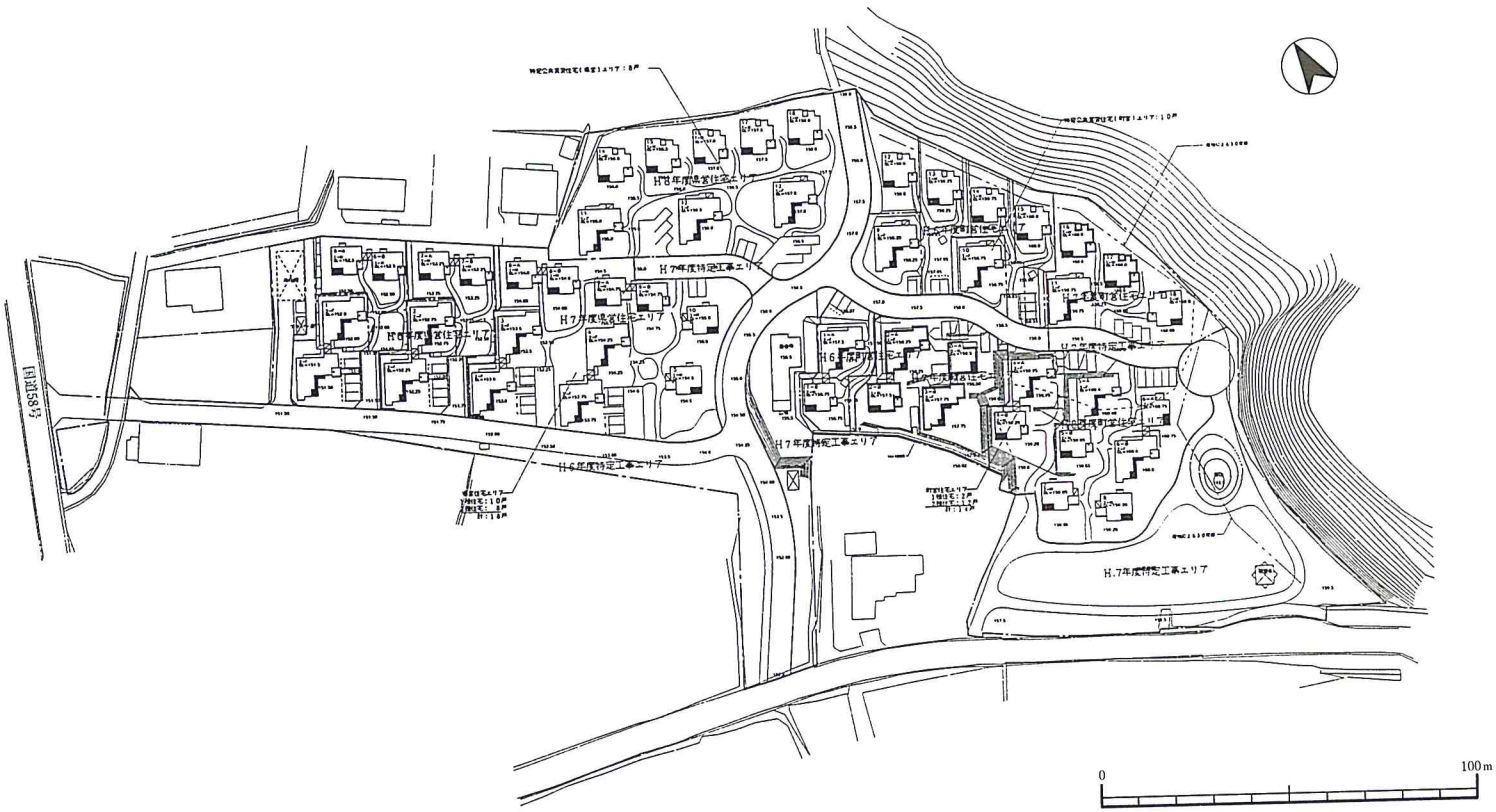
本遺跡は，コスモタウン南種子団地建設に伴い確認調査と本調査を実施した。

平成６年度の確認調査により，約4,000㎡の縄文時代早期の遺跡が確認された。工事実施前の協議の結果，本遺跡は開発側の御理解により住宅建設される計画高を上げることで設計変更がなされ，一部分は住宅の下とはなるが展望台の建設される49㎡を除く約3,951㎡が保存されるに至った。

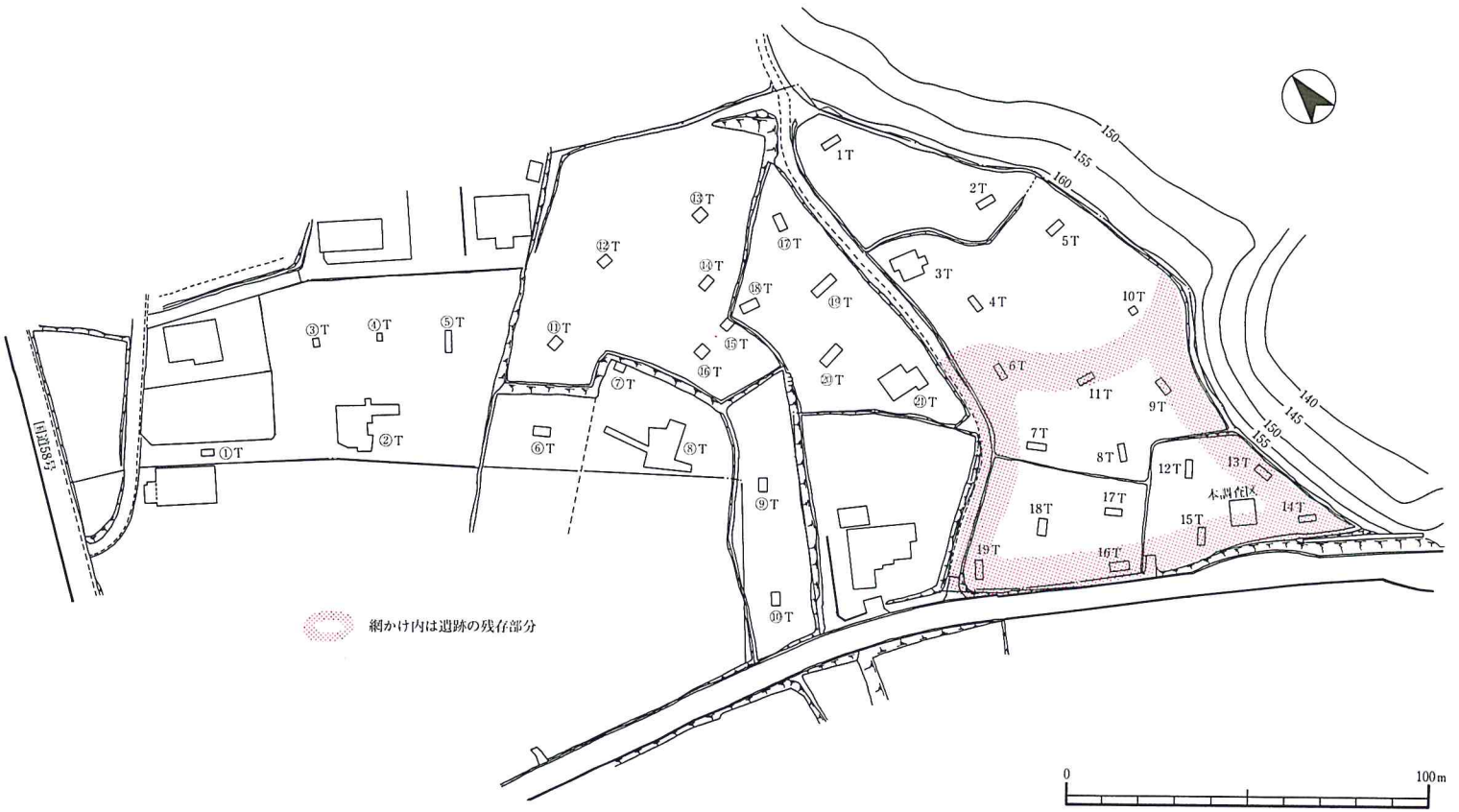
その後，鹿児島県市町村土地開発公社では遺跡の確認されなかった部分において平成６年度に16棟の住宅を建設し，平成７年度には展望台部分の本調査を実施した後，それを含む公園整備と14棟の住宅が建設された。同団地では平成８年度以降には20棟の住宅建設が予定されている。



建設中の住宅団地



第18図　コスモタウン南種子団地完成予想図



第19図　遺跡の残存状況図

第5章　まとめ

石ノ峯遺跡の調査は，対象面積が23,587㎡とかなり広域にわたる分布調査に始まり，詳細分布調査，確認調査，本調査と各段階の調査を経て，今回の報告書作成となった。

詳細分布調査の段階で，若干灰色をおびた黒褐色土層を埋土とする遺構が検出された。主に柱穴状のピットと溝状遺構であったが，近現代のものと判断して調査を終了した。

確認調査の結果，約4,000㎡にわたり縄文時代早期の遺物包含層が確認されたが，設計変更を経て最終的には展望台が建設される49㎡の本調査となった。

遺物包含層は，縄文時代早期後半の塞ノ神式土器を中心とするもので，１点のみ平栫式土器が出土した。塞ノ神式土器は河口貞徳氏の言う，Ａ式・Ｂ式両型式の土器が出土している。調査面積が狭いため出土遺物は少なかったが，断崖絶壁を呈する高台に位置する遺跡の立地や石器等との関連も含めて，その意味について考えてみたい。

遺物包含層が確認されたのは約4,000㎡であったが，その周辺の多くはすでに削平されており，実際はさらに広域に分布していたものと考えられる。また，遺跡東南部の断崖も約7,000年という時間的な崩壊を考慮すれば，遺跡の一部を崩落させた可能性も高い。

また，北東部にあるさらに高い丘陵地では，やはり塞ノ神式土器や平栫式土器が採集されることから，この辺り一帯は，縄文時代早期後半に大規模な集落が存在した可能性も考えられよう。

さて，本遺跡の出土品の中で注目されるのが磨製石鏃である。縄文時代の磨製石鏃は最近類例が増え，草創期からの出土が知られている。本遺跡では３点の磨製石鏃が出土した。しかも３点と多く，打製石鏃が１点と，磨製の技術が優勢だったとも考えられ注目される。時期については，その出土状況から塞ノ神Ｂ式土器に伴う可能性が高い。

また，磨石・敲石・石皿等のいわゆる収穫具とされる石器が計17点と多いことも注目される。相対的に包含層の残存状況が悪い中，比較的多くの遺物が出土した９トレンチでは，９点も出土した。得られた資料の制約上，石器組成のデータには無理があるが，当地域で塞ノ神式土器が使用されていた頃の石器使用の様相，ひいては彼らの生活実態をおおまかには示しているものと考えられる。

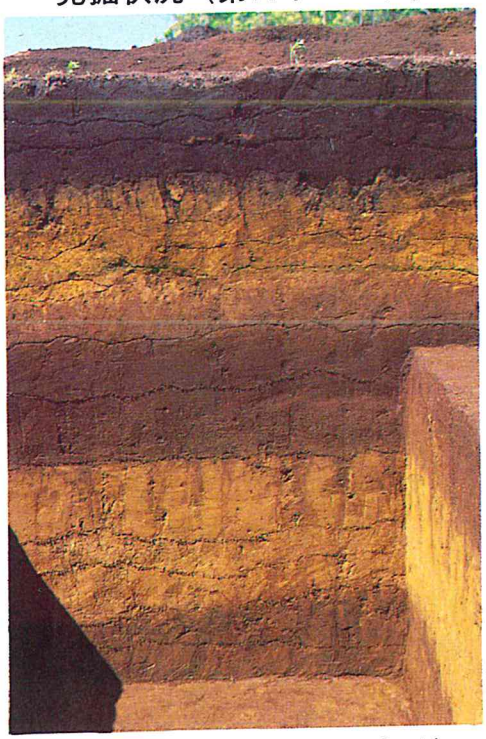
種子島の考古学的成果は，近年旧石器時代の横峯遺跡（南種子町）や縄文時代草創期の奥ノ仁田遺跡（西之表市）・三角山遺跡（中種子町）等，これまでの常識をくつがえすような発見が相次ぎ，広田遺跡（南種子町）や鳥ノ峯遺跡（中種子町）が発見された昭和30年代に次ぐブームとなっている。そのような中，この一連の調査で資料的には少ないながらも磨製石鏃の在り方など，縄文時代早期後葉の状況を示唆する資料が得られたことは，今後の南九州縄文時代研究に貴重なデータを与えてくれたと言えよう。

図　版

発掘調査状況（確認調査）

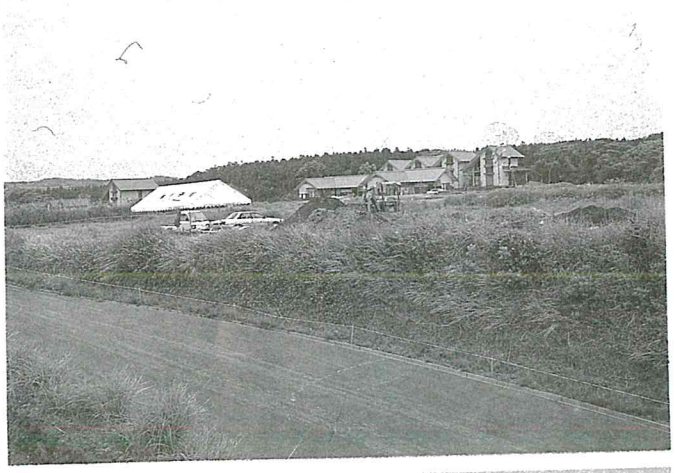
発掘調査状況（本調査）

完掘状況（第17トレンチ）

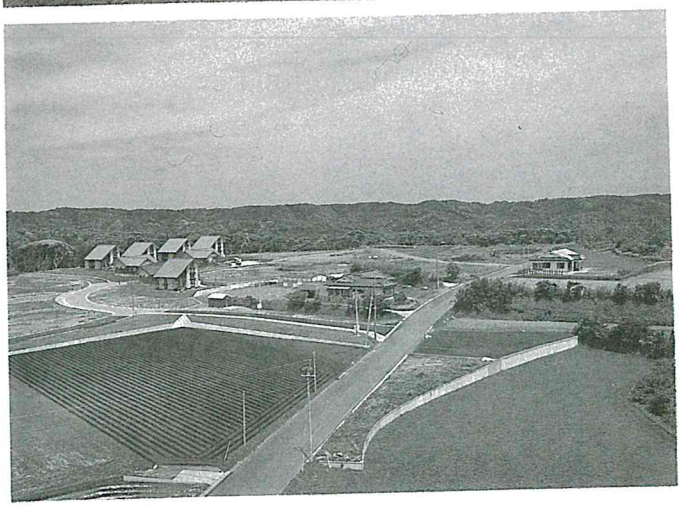


土層断面（本調査区北東壁）

遺跡近景(北西側から)
調査中



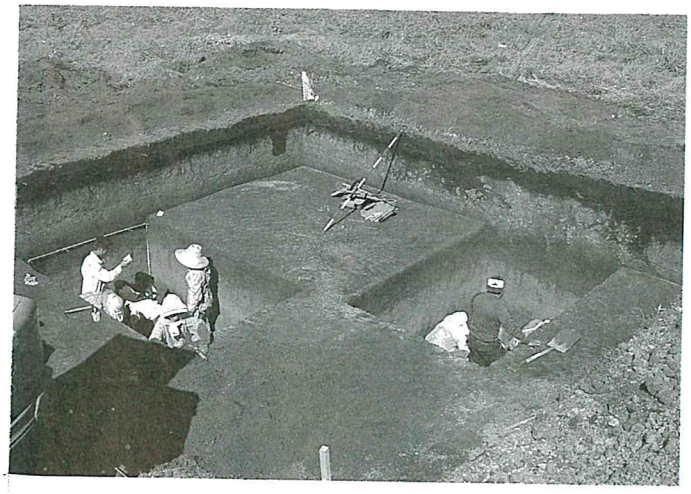
遺跡近景（南側から）
調査中



遺跡近景（西側から）
調査中

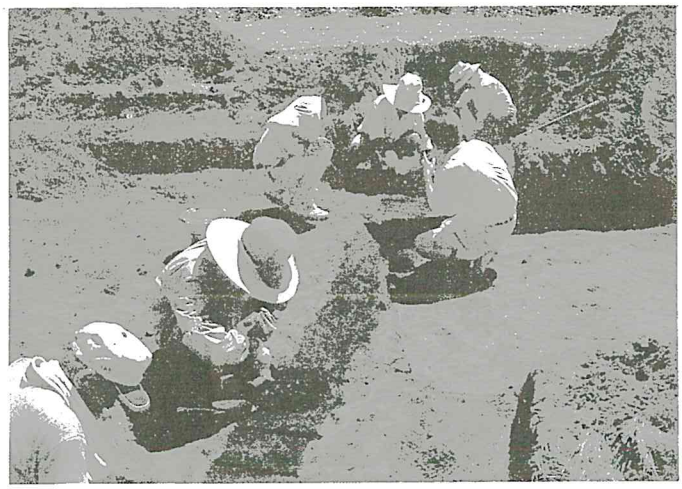
詳細分布調査状況

確認調査状況

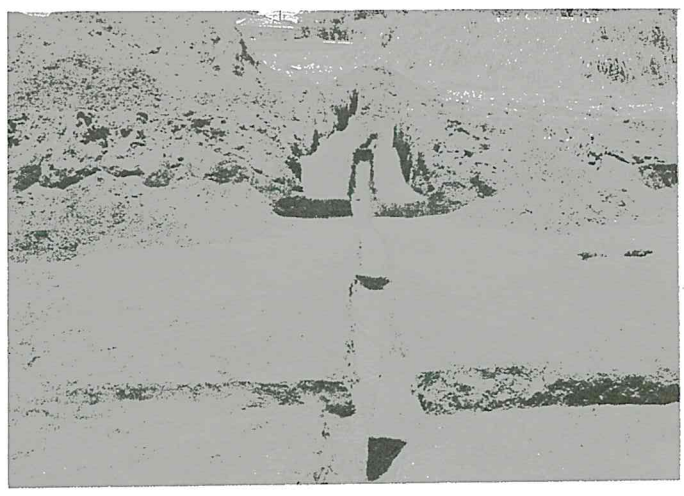


本調査状況

ピット状遺構
検出状況

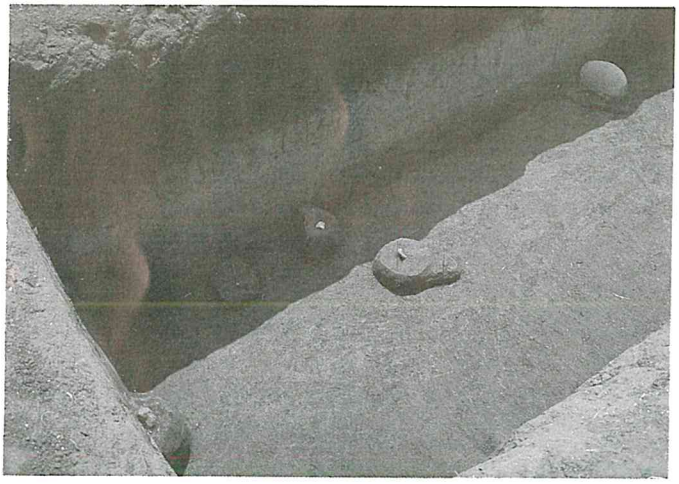


溝状遺構検出状況

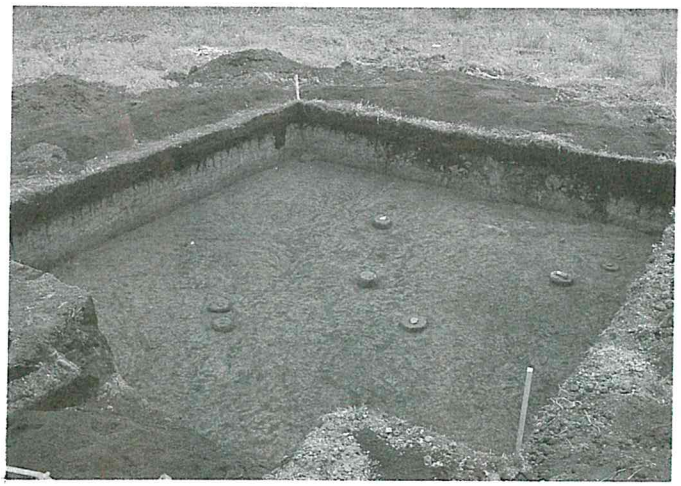


溝状遺構検出状況

遺物出土状況
（第9トレンチ）



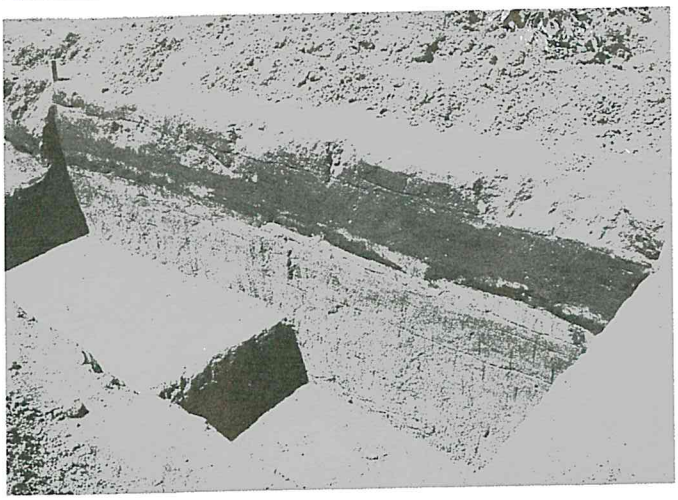
遺物出土状況
（第16トレンチ）



遺物出土状況
（本調査区）

町長視察風景

土層断面
（第4トレンチ）



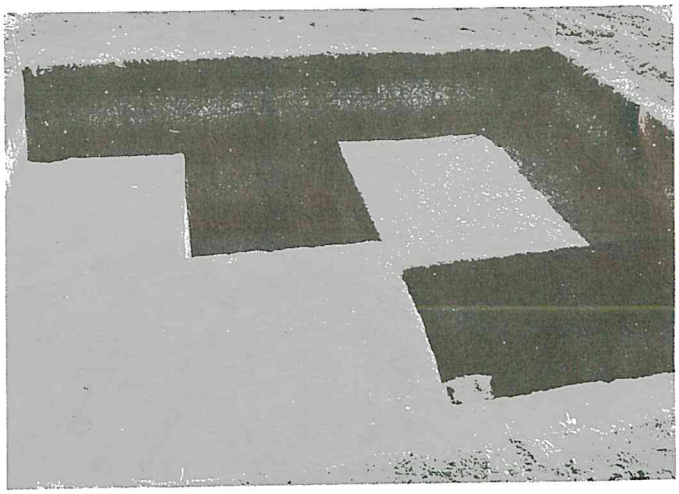
土層断面
（第7トレンチ）

土層断面
（第8トレンチ）

土層断面
（第14トレンチ）

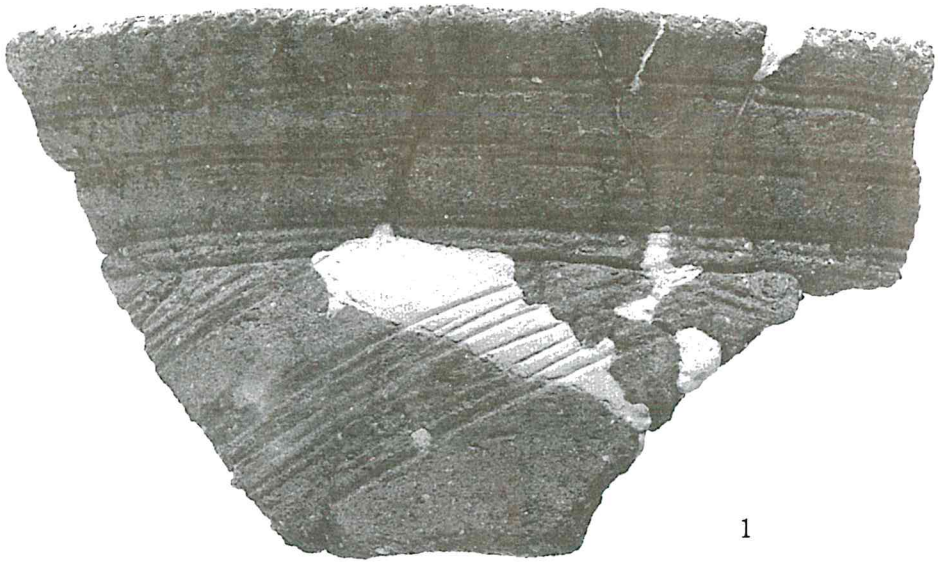
土層断面
（第18トレンチ）

土層断面
（本調査区）

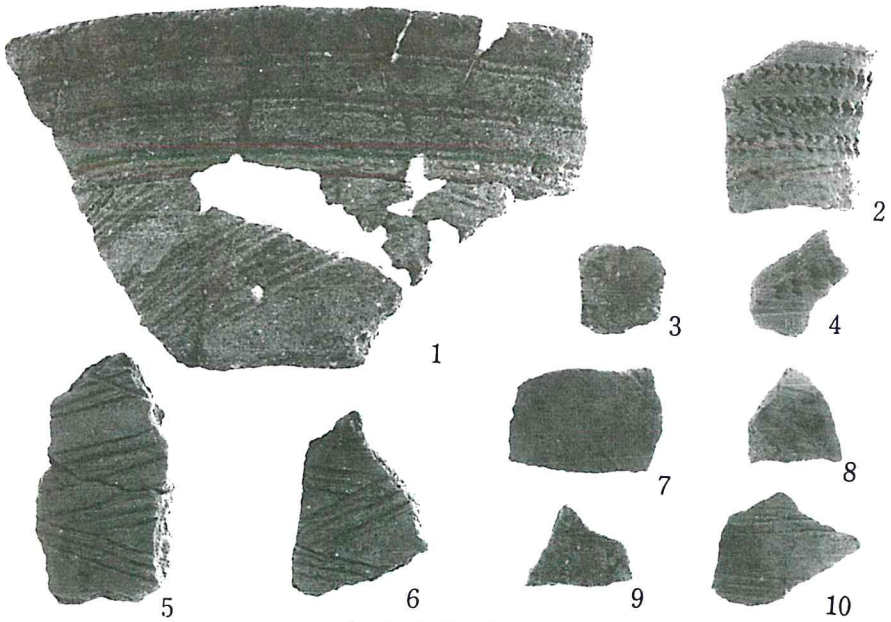


完掘状況
（本調査区）

遺跡より
東方を望む

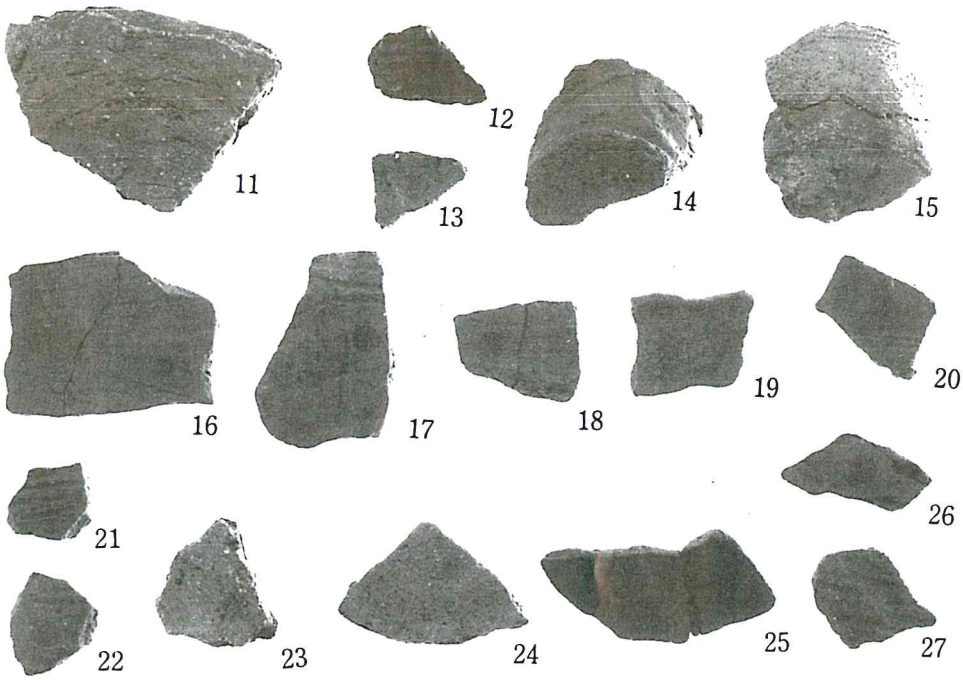


1



1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

出土遺物（1）



出土遺物（２）

32

33

34

35

36

37

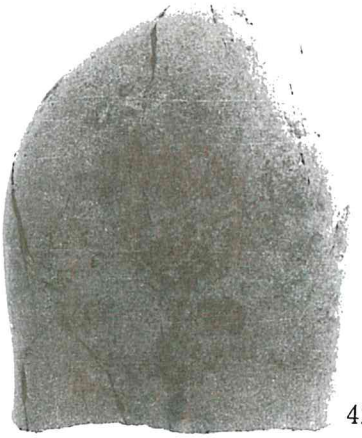
38

39

40

出土遺物（３）

41



42

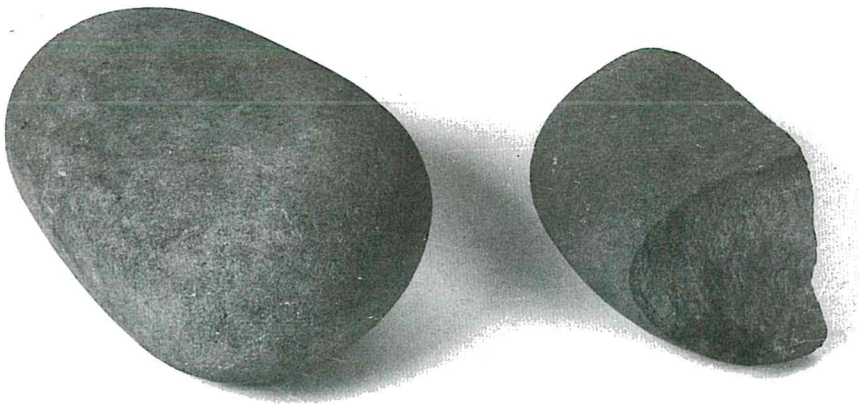
43

44

出土遺物（４）

45

46



47　　48

出土遺物（５）

図版１５

発掘作業員（確認調査）

発掘作業員（本調査）

あ と が き

調査の年は例年にない猛暑であり，目のくらみそうな太陽のもとの調査でした。その日差しの中，狭いトレンチに入って大粒の汗をかきながら調査を続けてくれた作業員の皆様，大変ありがとうございました。

今回は，担当する私にとっても初めての調査であり，緊張と感激の連続で一生忘れることのできないものでありました。

さらにこの調査報告書が，郷土の歴史を知るうえで少しでも手掛かりとなっていただければ幸いです。

最後に，発掘調査から報告書作成作業まで御協力いただいた県立埋蔵文化財センターの職員の方々をはじめ，特に整理作業の折り御協力いただいた森静江さん，行舩純子さん，岩爪美津子さんに記して感謝の意を表します。

（坂　口）

南種子町埋蔵文化財発掘調査報告書(6)

石ノ峯遺跡

1996年 3月

発　行　南種子町教育委員会
　　鹿児島県熊毛郡南種子町中之上2793-1
印　刷　種子島新生社印刷
　　鹿児島県西之表市西之表16516